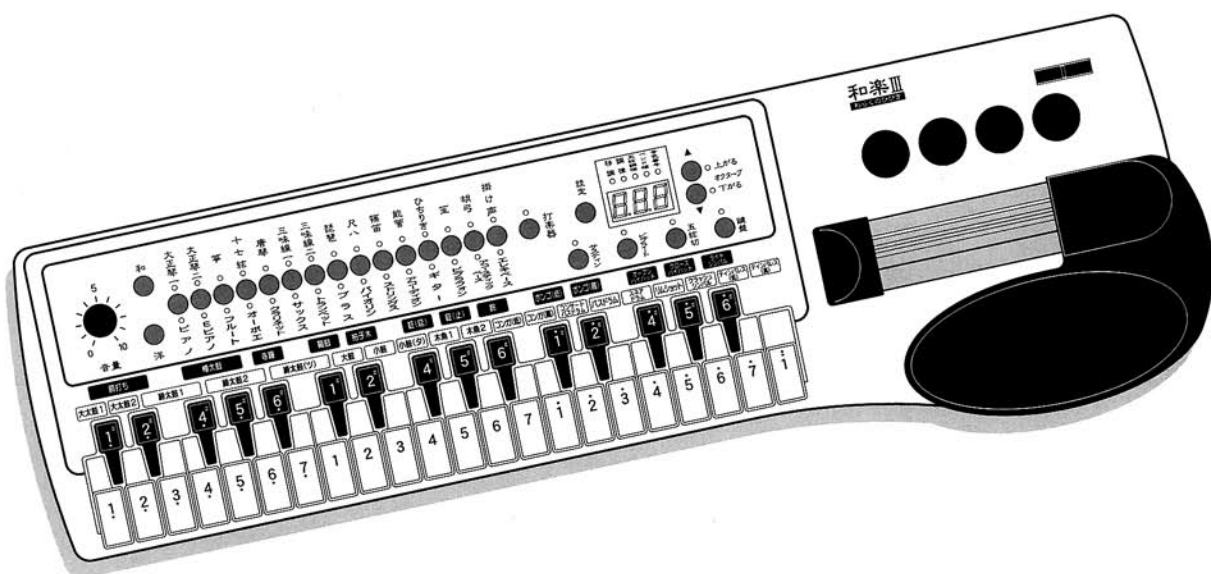


和楽Ⅲ

わらくのひびき

取扱説明書



この度は、スズキ「和楽Ⅲ」をお買い上げいただきまして誠にありがとうございます。

本製品を末永く、そして安全にお使いいただくため、この取扱説明書をよくお読みください。

お読みになった取扱説明書は、なくさないように大切に保管してください。

 **SUZUKI**

目 次

使用上のご注意	2	設定スイッチと各設定	21
各部の名称とはたらき	4	移調をする	
演奏する前に	7	調律をする	
アンプとの接続	8	五絃調律をする	
ヘッドホンの使用	9	ベンド幅を変える	
音を出す	10	絃センサーの張り替え方	26
絃センサーを弾いて音を出す		特殊な操作をする	28
ピックの持ち方と右手の置き方		太鼓センサーの呼び出しをする	
鍵盤で音を出す		ビブラートスピードを変える	
太鼓センサーをたたいて音を出す		音色のモノフォニック/ポリフォニックを切り替える	
音色を変える	13	絃センサーの分割発音/一括発音を切り替える	
音色スイッチを使って音を変える		感度調整をする	
音色番号を使って音色を変える		エクスペッションペダルを接続する	
サスティン効果をつける	15	強弱のガイド機能を使う	
ビブラート効果をつける	16	初期化する	
オクターブの移動をする	17	オールノートオフをする	
打楽器音を鳴らす	18	MIDI について	43
太鼓センサーをたたいて打楽器音を鳴らす		MIDI とは	
鍵盤で打楽器音を鳴らす		MIDI の使用例	
打楽器音を太鼓センサーに登録する		MIDI リファレンス	
オクターブスイッチが入っている時の打楽器音を鳴らす		付表	52
		音色番号一覧表	
		打楽器音色一覧表	
		MIDI インプリメンテーションチャート	
		第四絃以外を使用する音色	
		故障かなと思う前に	56
		仕様	57

使用上のご注意

	警 告	この表示内容を見逃した取り扱いをすると、死亡や重傷を負う可能性が想定されます。
	注 意	この表示内容を見逃した取り扱いをすると、傷害を負う可能性または物的障害が発生する可能性が想定されます。

警 告



改造・分解は危険です。

改造や分解はしないでください。故障の原因となるだけでなく、感電の恐れがありたいへん危険です。



付属の AC アダプタ以外は使用しないでください。

付属の AC アダプタ (AD1-1010) 以外は、絶対に使用しないでください。故障の原因となるだけでなく、感電・発熱・火災の恐れがありたいへん危険です。



濡れた手で触れないでください

濡れた手で AC アダプタ・コードおよび本体に触れないでください。故障の原因となるだけでなく、感電の恐れがありたいへん危険です。



湿気は大敵です

風呂場など水分や湿気の多い場所では、絶対に使用・保管しないでください。故障の原因となるだけでなく、感電の恐れがありたいへん危険です。



ホコリっぽい場所は避けてください

ホコリの多いところでの使用・保管は避けてください。故障や発火などの原因になることがあります。



コードは引っ張らないでください

AC アダプタのコードの上に物を置いたり、引っ張ったりしないでください。感電の恐れがありたいへん危険です。

注 意



熱くなる場所を避けてください

自動車の中や暖房器具のすぐ近くなど、極端に熱くなる場所での使用・保管は避けてください。変形・故障の原因になることがあります。



異物を入れないでください

本製品に異物や液体を入れないでください。故障の原因となるだけでなく、感電の恐れがあります。



衝撃を与えないでください

本製品をぶつけたり、落したりしないでください。製品に傷をつけるだけでなく、故障の原因になります。



不安定な場所に置かないでください

楽器を不安定な場所に置かないでください。落下をして思わぬけがをする危険があります。



絃の張り替えは顔を遠ざけて

絃の張り替えのときは、本製品に顔を近づけすぎないようにしてください。万一絃が切れますと、顔や目を傷つける恐れがあります。



絃で手を傷つけないように

絃の張り替えのとき、絃の先端で手や指などを傷つけないように気をつけてください。



使わないときは電源を切ってください

ご使用の後は電源スイッチを切り、ACアダプタを抜いてください。



磁気を使用している製品の近くは避けて

本製品に搭載されているスピーカーは防磁型ではありませんので、テレビ、カセットテープ、フロッピーディスクなど、磁気を使用している製品の近くでお使いにならないでください。



お手入れはやわらかい布で

お手入れはやわらかい布でカラ拭きしてください。アルコール・シンナー・ベンジン等は製品を痛めますので絶対に使用しないでください。

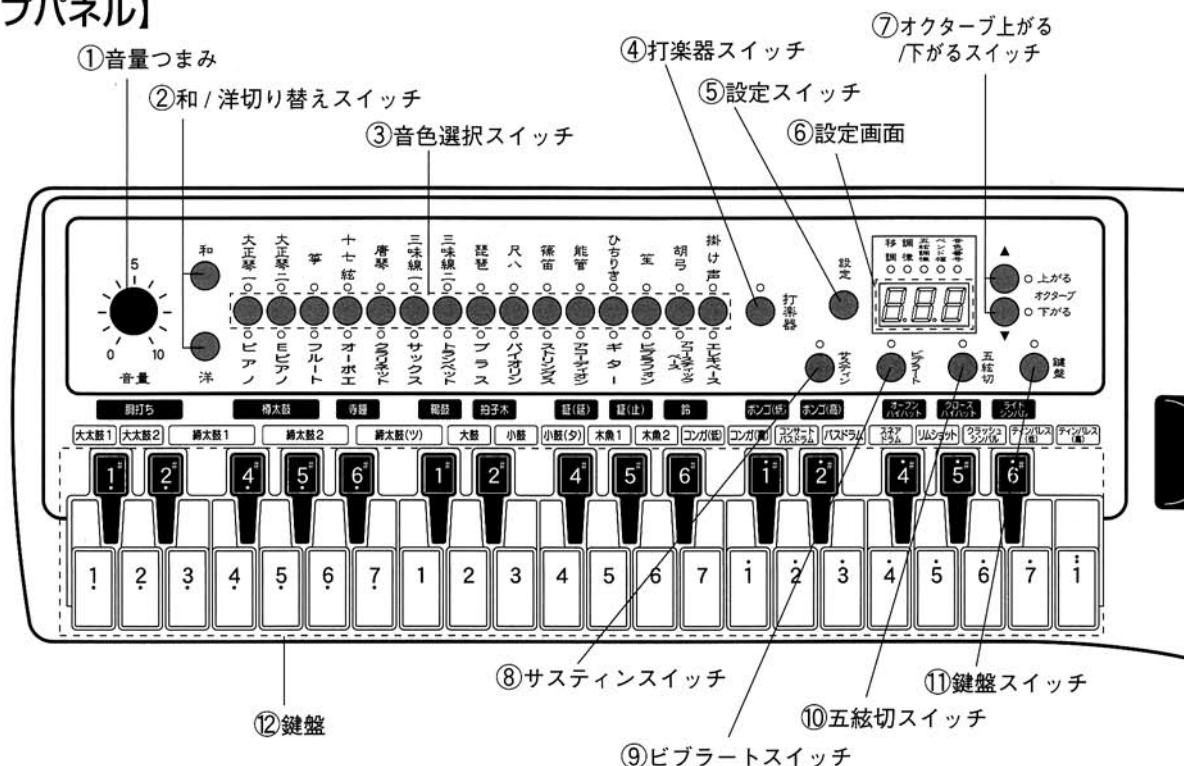


異常を感じたら電源を切ってください

万一異臭や発熱などの異常を感じたときは、電源を切り、ACアダプタをコンセントから抜いて、お買い上げ販売店、スズキ各営業所または、お客様ご相談窓口にご連絡ください。

各部の名称とはたらき（簡単操作ガイド）

【トップパネル】



①音量つまみ

全体（モニタースピーカー・ヘッドホン出力・外部出力）の音量を調節します。

②和 / 洋 切り替えスイッチ

「和楽器音」と「洋楽器音」の2種類に大別された音色の切り替えをします。

「和」スイッチを押すと、「大正琴1」～「掛け声」までの音色スイッチを選択でき、「洋」スイッチを押すと、「ピアノ」～「エレキベース」までの音色スイッチを選択することができます。

③音色選択スイッチ→13ページ

和楽器音色15、洋楽器音色15のパネル30音色が選択できます。

④打楽器スイッチ→18ページ

打楽器音を鳴らすことができます。

⑤設定スイッチ→21ページ

各設定が可能になります。

スイッチを押す度に、「移調」・「調律」・「五絃調律」・「バンド幅」・「音色番号」と設定項目が変わります。

移調 調子を切り替えます。→22ページ

調律 調律をします。→23ページ

五絃調律 大正琴音色等において、常に開放絃である五絃の音程を変更します。→24ページ

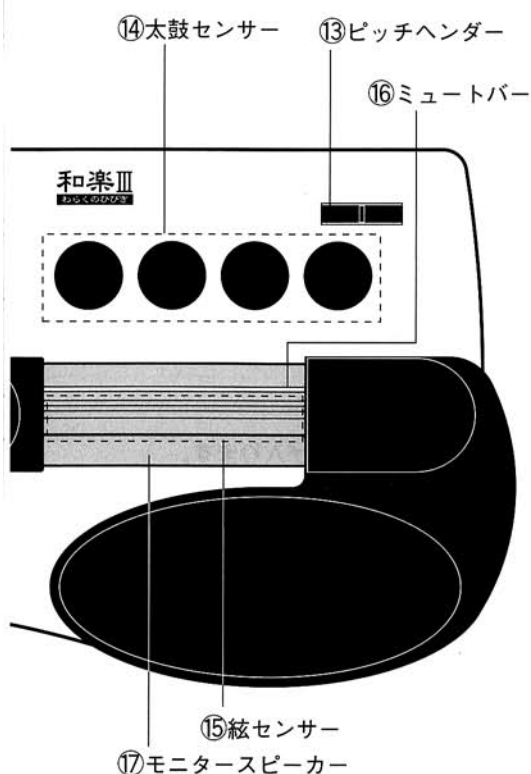
バンド幅 ピッチバンド使用時の音程の変更幅を設定します。→25ページ

音色番号 パネル30音色を含む、全67音色を選択できます。→14ページ

⑥設定画面

各設定のランプや数値などが表示されます。

ランプの点滅は設定作業中であることを示します。点灯は初期設定から設定が変更されていることを示します。



⑪鍵盤スイッチ

絃センサーの使用を入/切します。

鍵盤スイッチを入れたときは、鍵盤を押さえるだけで選択した音色が鳴ります。発音する音量は一定となります。

鍵盤スイッチを切ったときは、鍵盤を押さながら絃センサーを弾くと音量(絃センサーを弾くときの強さ)に反応して発音します。

⑫鍵盤

鍵盤を押さながら絃センサーを弾くと音が鳴ります。→ 10 ページ

鍵盤スイッチが入っているときは、鍵盤を押さえるだけで音が鳴ります。→ 12 ページ

打楽器スイッチを入れ、鍵盤を押さえると、鍵盤の上部に示されているとおりの打楽器音が鳴ります。→ 18 ページ

(※オクターブスイッチが入っている時は、示されている打楽器音と、実際に鳴る打楽器音は異なります→ 20 ページ)

⑬ピッチベンダー

音をベンドすることができます。

(ベンドとは、音程を変え、節に「こぶし」のような効果を出すことです。) 右へ動かすと音程が上がり、左へ動かすと音程が下がります。

⑭太鼓センサー

指でたたくと打楽器の音が鳴ります。

左から「バスドラム」・「スネアドラム」・「クロースハイハット」・「クラッシュシンバル」の各打楽器音が鳴るようになっていきます。

好きな打楽器音を任意の太鼓センサーに登録することもできます。→ 19 ページ

⑮絃センサー

鍵盤を押さえ、大正琴と同じようにピックで弾くと音が鳴ります。→ 10 ページ

⑯ミュート (音を消す) バー

絃センサーとミュートバーを同時に触れると、ミュートされます。→ 11 ページ

⑰モニタースピーカー

ヘッドホンが接続されていない時に、発音します。

⑦オクターブ上がる/下がるスイッチ → 17 ページ

鍵盤から鳴る音の音域を 1 オクターブ上げるとき、または下げるときに使います。

また、「設定スイッチ」で各設定をおこなう際に、数値を変更するのに使います。

⑧サステインスイッチ → 15 ページ

サステインを入/切します。

サステインがかかる長さは音色ごとに自動的に変化します。

⑨ビブラートスイッチ → 16 ページ

ビブラートを入/切します。

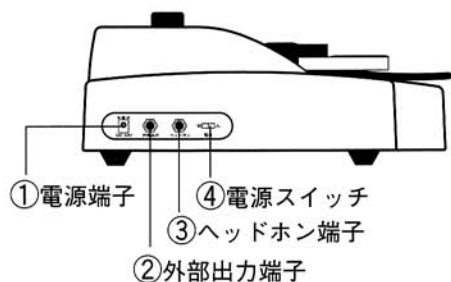
このスイッチを入れた状態で鍵盤を強く押さえるとビブラートがかかります。普通に押さえた場合にはかかりません。

⑩五絃切スイッチ

大正琴音色等における五絃の音を、弾いても出ないようにするスイッチです。

※五絃を弾いて音が鳴る音色と、鳴らない音色があります。「第四絃以外を使用する音色」参照→ 55 ページ

【サイドパネル】



①電源端子

付属のACアダプタを接続します。

②外部出力端子

外部アンプを接続します。

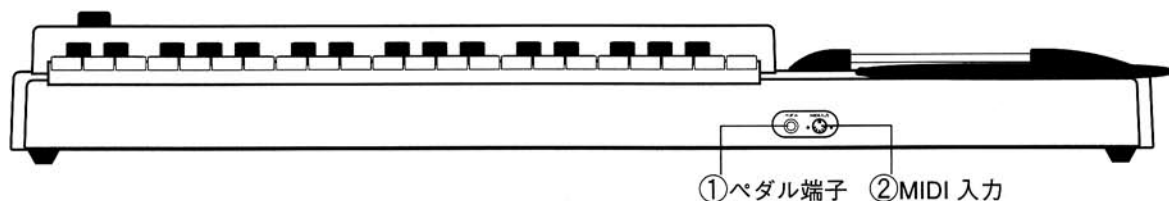
③ヘッドホン端子

ヘッドホンを接続します。

④電源スイッチ

スイッチを右へ動かすと電源が入ります。

【フロントパネル】



①ペダル端子

別売のエクспRESSIONペダルV-20Hを接続します。

②MIDI 入力

外部からMIDIデータで本製品を操作するためのMIDIケーブルを接続します。

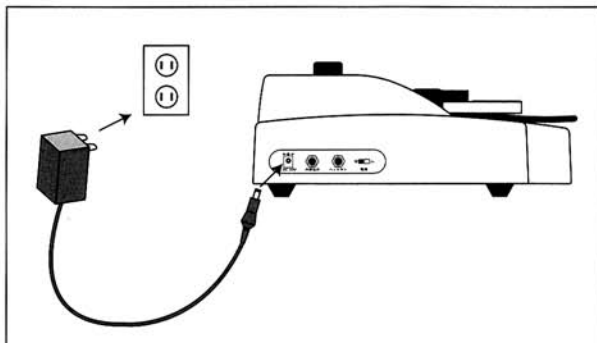
【付属品】

予備弦・ピック・ACアダプタ (AD1-1010)・ソフトケース

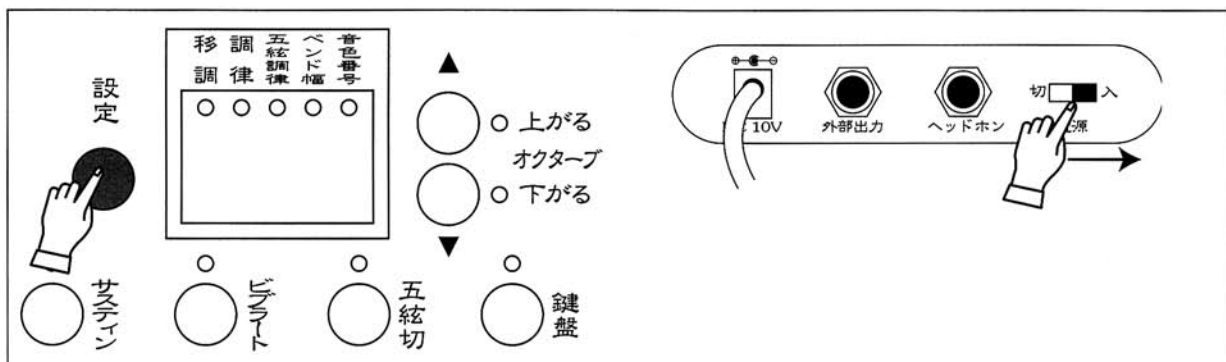
演奏する前に

デモ曲の聴き方

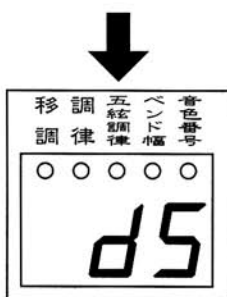
- ① 付属のACアダプタを電源端子に接続し、家庭用コンセントに差し込みます。



- ② 「設定スイッチ」を押しながら「電源スイッチ」を入れます。「設定画面」に「d5」と表示されるまで「設定スイッチ」を押したままにしてください。



「設定スイッチ」を押しながら、電源を入れる。
「設定画面」に表示されるまで「設定スイッチ」は押したままにする。

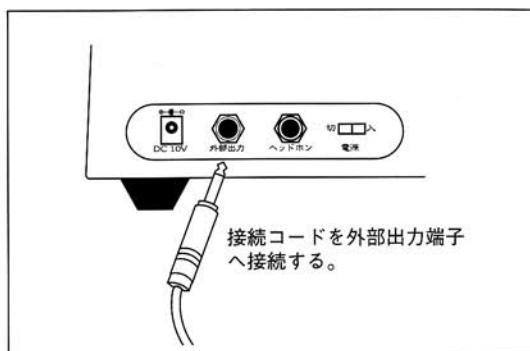


- ③ 「オクターブ上がる/下がるスイッチ」を押すと、デモ曲の演奏が始まります。「音量つまみ」でデモソングの音量調整が可能です。
- ④ 「設定スイッチ」を押すと、デモ曲の演奏はストップします。
- ⑤ 通常の演奏へは、一度電源を切らないと移れません。通常の演奏のしかたは、10ページの「音を出す」を参照してください。

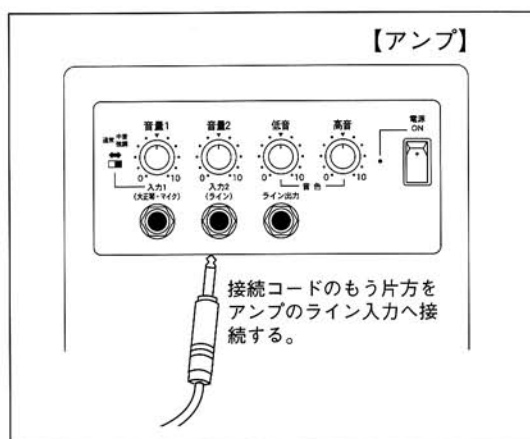
アンプとの接続

本製品をアンプ（別売）と接続してみましょう。大音量での演奏が楽しめます。

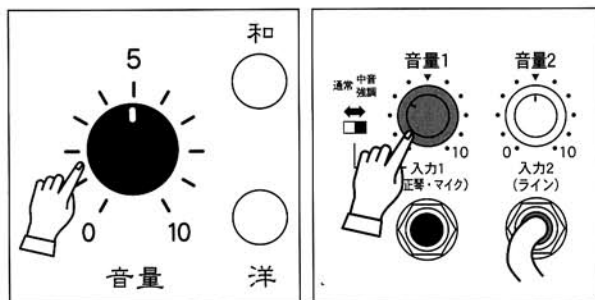
- ① 本製品およびアンプの電源を切ります。
- ② 接続コードを「外部出力端子」に接続します。



- ③ 接続コードのもう片方をアンプの入力端子に差し込みます。



- ④ 本製品の電源を入れます。
- ⑤ アンプの電源を入れます。
- ⑥ 本製品の「音量つまみ」を真ん中位にして弾きながら、アンプの音量を調節します。



- ⑦ 本製品の「音量つまみ」をお好みの位置に調節します。

※「外部出力端子」の使用中でも本体のスピーカーから音が出ます。

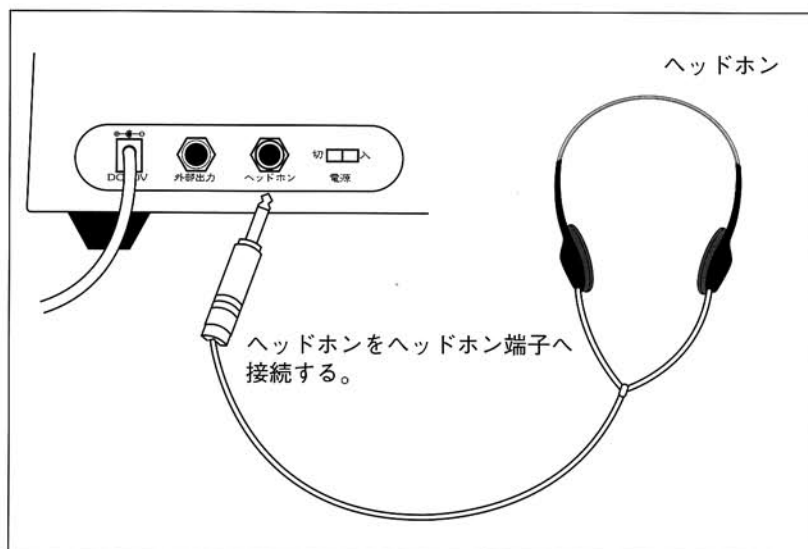
ヘッドホンの使用

本製品はヘッドホンを接続し、演奏することができます。

使用できるヘッドホンは、標準フォーンプラグステレオ及びモノラルヘッドホンです。ただし、出力はモノラルのため、ステレオヘッドホン使用の場合は左右から同じ音が出ます。

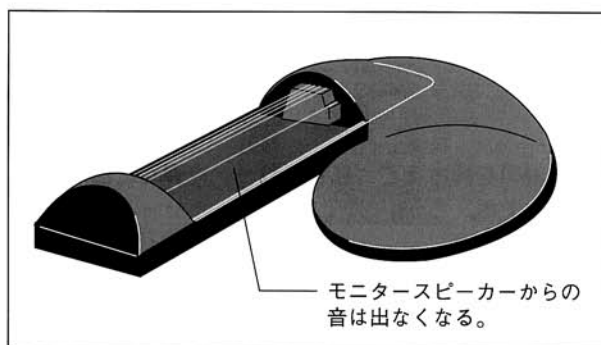
ヘッドホンの使用には以下の操作をおこなってください。

- ① ヘッドホンを「ヘッドホン端子」へ接続します。



- ② 演奏すると、ヘッドホンから音が聞こえ、モニタースピーカーからは音が出なくなります。

※ アンプ等に接続されている場合は、アンプより音が出ます。



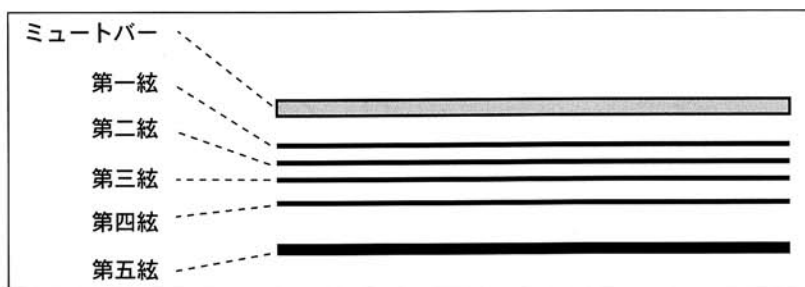
音を出す

大正琴では通常、第一絃から第四絃までを同時に弾いて演奏します。

第一絃から第三絃までは同じオクターブですが、微妙な音程のズレにより、美しい響きをつくります。第四絃はそれより1オクターブ下で、音に厚みを加えます。

第五絃は「ベース絃」とも呼ばれ、鍵盤では音程が変わりません。素早く高音と低音を交互に演奏する場合の低音部や、通奏低音に使用します。また、第五絃の音程は曲の調に合わせて変えることができます。→24ページ

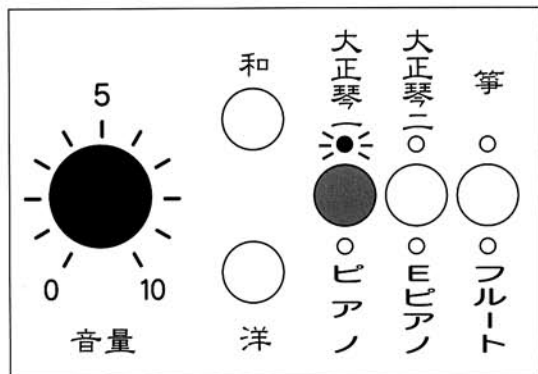
大正琴以外の音色では、基本的に第四絃のみが発音しますが、それ以外の絃を用いて特殊な奏法が可能になっている音色もあります。→55ページ



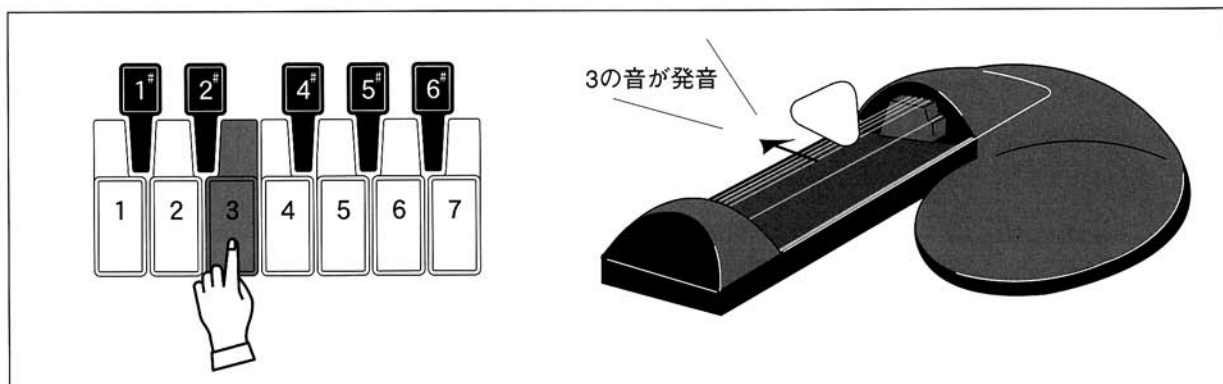
絃センサーを弾いて音を出す

① 付属のACアダプタを電源端子に接続し、家庭用コンセントに差し込みます。

② 「電源スイッチ」を入れます。電源投入時は「大正琴」の音色に設定されており、ランプが点灯します。



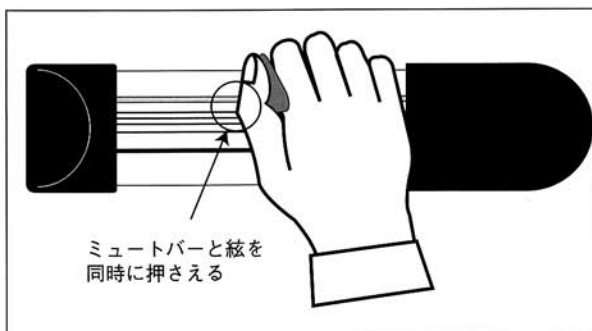
③ 鍵盤を押さえて「絃センサー」を弾くと音が鳴ります。「絃センサー」を弾く強さによって、音の強弱が変化します。



例：「3」の鍵盤を押しながら、絃を弾く。

- ④ 音を止めるには、ミュートバーと弦を同時に触れます。

大正琴の演奏として、音の余韻を消したい場合があります。絃センサーを弾いた後、指で絃センサーとミュートバーを同時に触れるとミュートできます。



※ パネル音色の中には絃を弾く方向によって、音色が変わるものがあります。(箏・十七絃・唐琴・三味線一・三味線二・琵琶・尺八・能管) また、接続音(篠笛・フルート等)は、一度発音した後に、同方向に絃を弾くと、発音は持続したまま音量を変えることができます。一度、鍵盤から指を離して絃を弾き直すか、発音後逆方向に絃を引くと、再度発音します。

ピックの持ち方と右手の置き方

本製品の演奏にはピックが必要です。(素手で絃を弾くと消音されてしまう場合があります。)

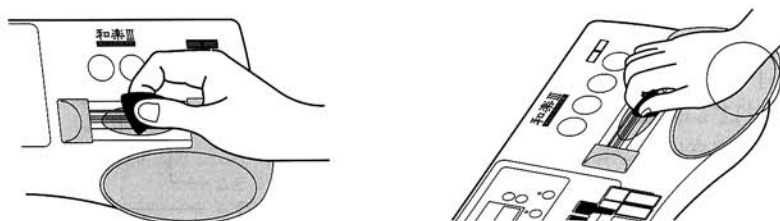
【ピックの持ち方】

右手ひとさし指と中指を寄せ、軽く曲げ、その上にピックをのせます。
ピックをつまむような形で親指をのせて、軽く押さえます。
薬指、小指は内側に曲げます。



【右手の置き方】

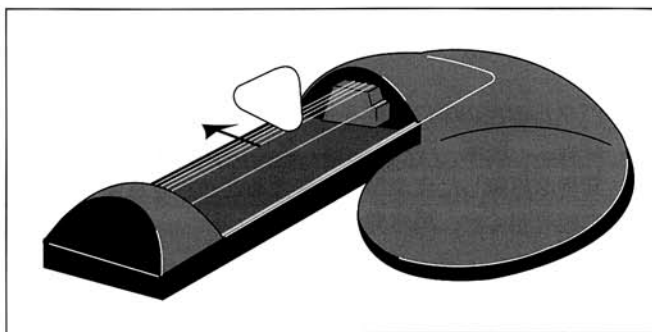
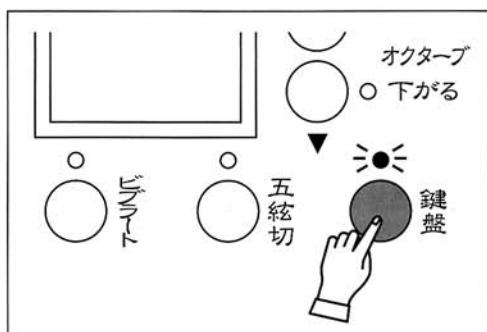
右手首を大正琴胴板の右端手前に軽くのせ、ピックが絃に垂直にあたるようにします。
手首を中心(支点)にして、大きく弧を描くように絃をはじきます。



鍵盤で音を出す

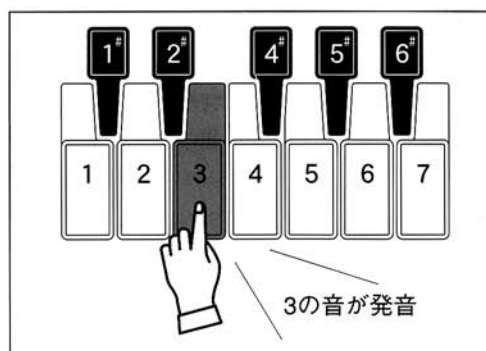
本製品は、大正琴としてだけでなく、ピアノなどの鍵盤楽器のように演奏することができます。

- ①「鍵盤スイッチ」を押し、ランプを点灯させます。「絃センサー」を弾いても音は鳴らなくなります。



「絃センサー」を弾いても音は鳴りません。

- ② 鍵盤を押さえてみましょう。鍵盤楽器のように演奏でき、発音される音量は、鍵盤を押さえる強さに関係なく一定です。



もう一度「鍵盤スイッチ」を押すとランプが消え、「絃センサー」を弾かないと音が出なくなります。

太鼓センサーをたたいて音を出す

電源投入時、「太鼓センサー」にはそれぞれ左から

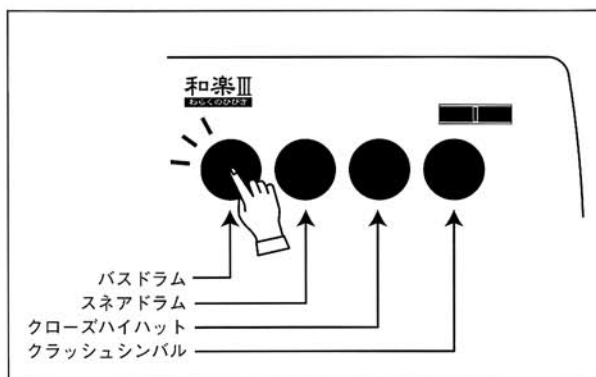
「バスドラム」

「スネアドラム」

「クローズハイハット」

「クラッシュシンバル」

の各打楽器音が登録されています。指でたたくと打楽器音が鳴ります。たたく強さによって音の強弱が変化します。



音色を変える

音色スイッチを使って音色を変える

本製品にはパネル 30 音色が搭載されています。電源を入れたときには、「大正琴一」の音色に設定されています。音色を変えるには以下の操作をおこないます。

- ① 和 / 洋 切り替えスイッチで和楽器の音色か、洋楽器の音色かを選びます。音色スイッチをはさんで、上が和楽器の音色、下が洋楽器の音色になっています。「和」を押したときには音色スイッチの上のランプが赤く点灯します。

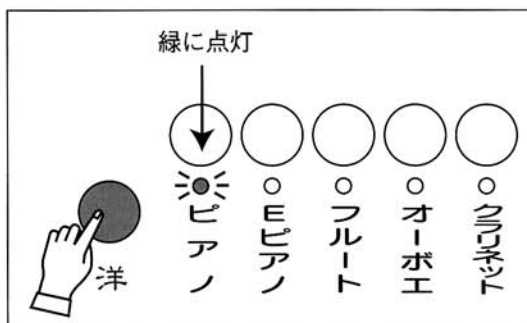
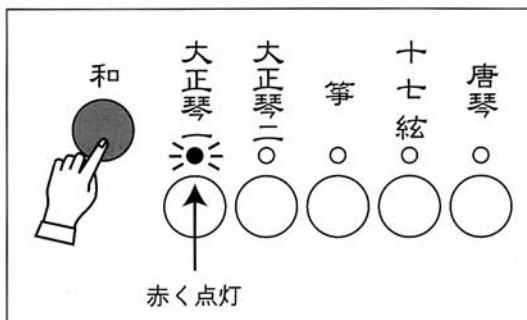
「和」にしたときに選べる音色

大正琴一	尺八
大正琴二	篠笛
箏	能管
十七絃	ひちりき
唐琴	笙
三味線一	胡弓
三味線二	掛け声
琵琶	

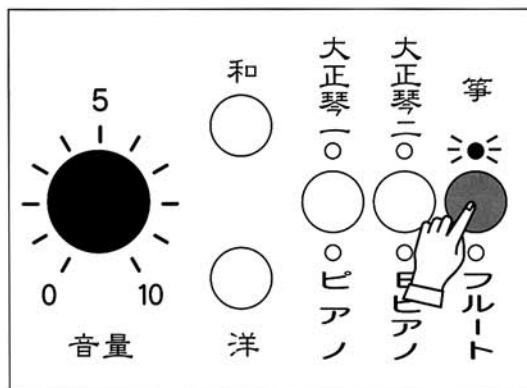
「洋」を押したときには音色スイッチの下のランプが緑に点灯します。

「洋」にしたときに選べる音色

ピアノ	バイオリン
エレクトリックピアノ	ストリングス
フルート	アコーディオン
オーボエ	ギター
クラリネット	ビブラフォン
サクソ	アコースティックベース
トランペット	エレキベース
ブラス	



- ② 音色を選びます。選択した音色スイッチの上または下のランプが点灯します。

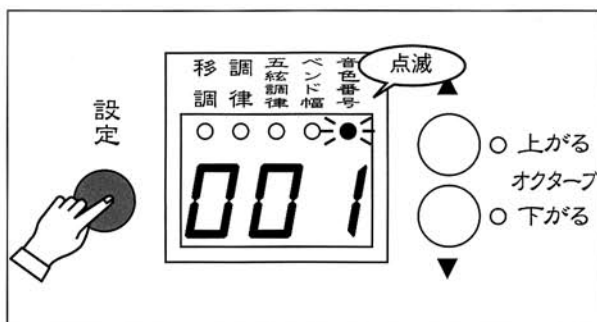


音色番号を使って音色を変える

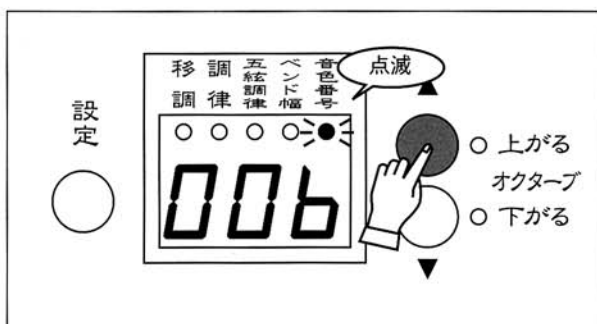
本製品にはパネル30音色だけでなく、さらに34種類の音色が内蔵されています。これらの音色を呼び出してみましょう。

- ①「設定スイッチ」を数回押して、「音色番号」のランプを点滅させます。
(ランプの点滅は、現在この設定を行っています、という合図です)

※「打楽器スイッチ」が入っているときは「音色番号」設定はスキップされますのでご注意ください。



- ②「オクターブ上がる/下がるスイッチ」を押すと、設定画面に1～64までの数字が点灯します。
「音色番号一覧表」を参照し、音色を選んでください。→52ページ



パネル30音色にもそれぞれ音色番号があり、1～64までの数字の中に含まれます。(例 大正琴二は音色番号6です)

音色番号を選んでいる間に、パネル音色に該当する番号が出てきたときには、その音色スイッチのランプが点灯します。(例 音色番号6を選ぶと音色スイッチ「大正琴二」のランプが点灯します)

パネル30音色に含まれない音色を選択すると、音色スイッチのランプは全て消えた状態になります。

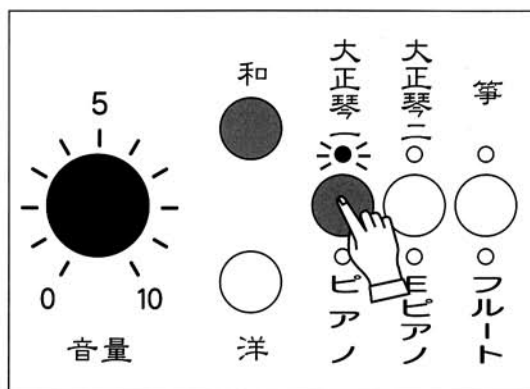
- ③「設定スイッチ」を押して、音色選択から抜けたとき、パネル30音色に含まれない音色が選択されていると「音色番号」のランプが点灯して残ります。「音色番号」で選択した音色は、「音色スイッチ」を押した時点で自動的にその音色に切り替わります。

サスティン効果をつける

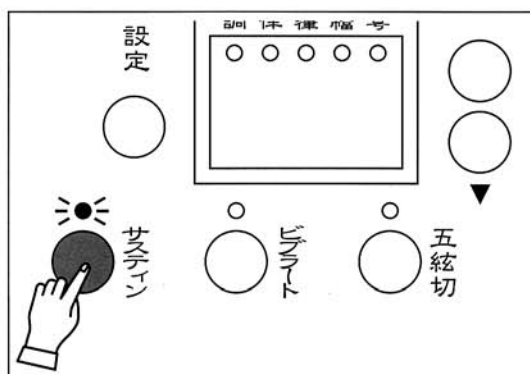
一般的に鍵盤から手を離すと即座に音が止みますが、本製品は鍵盤から指を離した後に徐々に音が消えていくサスティン効果をつけることができます。サスティン効果をつけるには以下の操作をおこなってください。

- ① サスティン効果をつけたい音色を「音色スイッチ」で選択します。

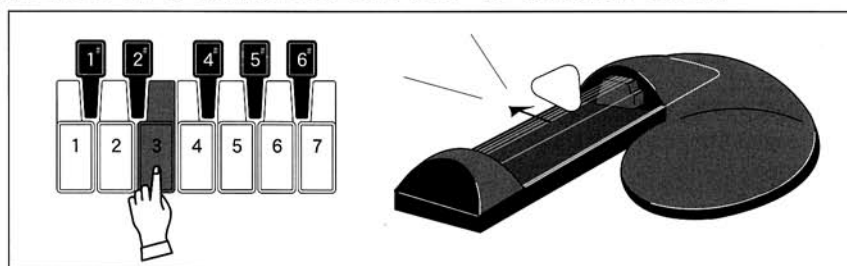
※音色によっては、初期設定でサスティン効果がついているものもあります。



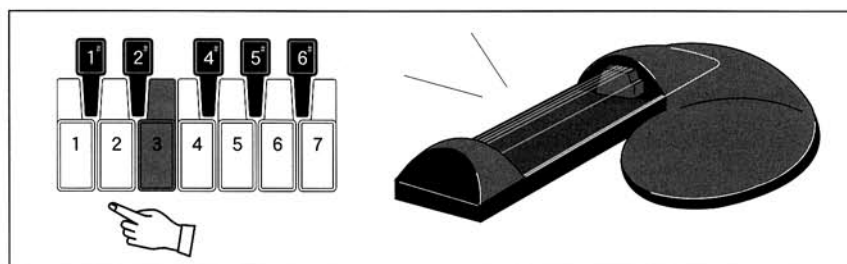
- ② 「サスティンスイッチ」を押し、ランプを点灯させます。



- ③ 鍵盤を押して発音させます。鍵盤から指を離した後、音が徐々に消えていきます。再度「サスティンスイッチ」を押し、ランプを消すか、電源を切るまで、①で選択した音色にはサスティン効果がかかります。



発音させる。



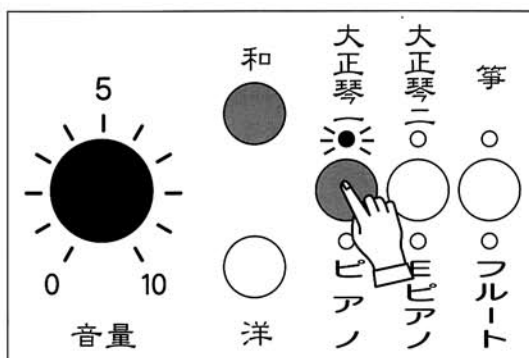
指を離す。

音が徐々に消えてゆく。

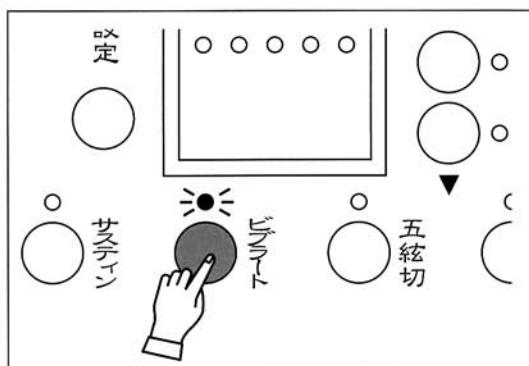
ビブラート効果をつける

弦楽器では指で、管楽器では息や唇によって音程を揺らし、旋律に潤いを与える奏法があります。これを「ビブラート」と呼びます。本製品は、この「ビブラート」効果をつけることができます。ビブラート効果をつけるには以下の操作をおこなってください。

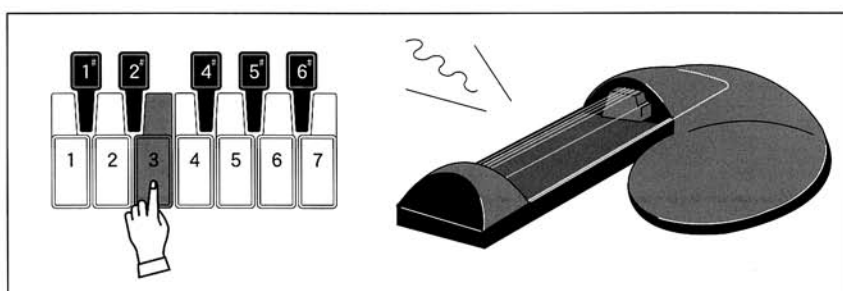
- ① ビブラート効果をつけたい音色を「音色スイッチ」で選択します。



- ② 「ビブラートスイッチ」を押し、ランプを点灯させます。



- ③ 発音中に鍵盤を更に強く押さえると、ビブラートがかかります。普通に押さえてもかかりません。再度「ビブラートスイッチ」を押し、ランプを消すか、電源を切るまで、①で選択した音色にはビブラート効果がかかります。



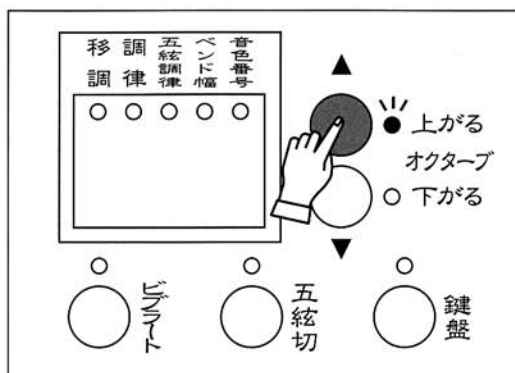
発音中に鍵盤を強く押さえる

ビブラートがかかる。

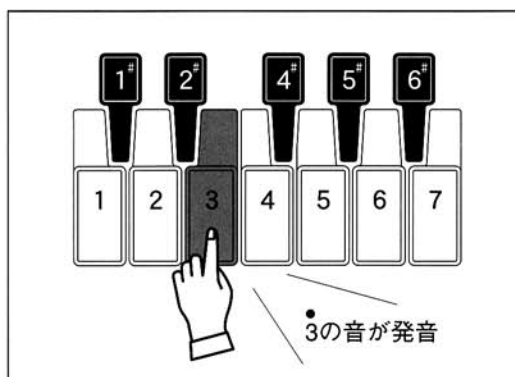
オクターブの移動をする

本製品は、初期設定されている音域よりも、1オクターブ低い音から1オクターブ高い音までを出すことができます。他の楽器とのアンサンブルや、演奏曲によって、オクターブ切り替えができ便利です。オクターブを切り替えるには以下の操作をおこなってください。

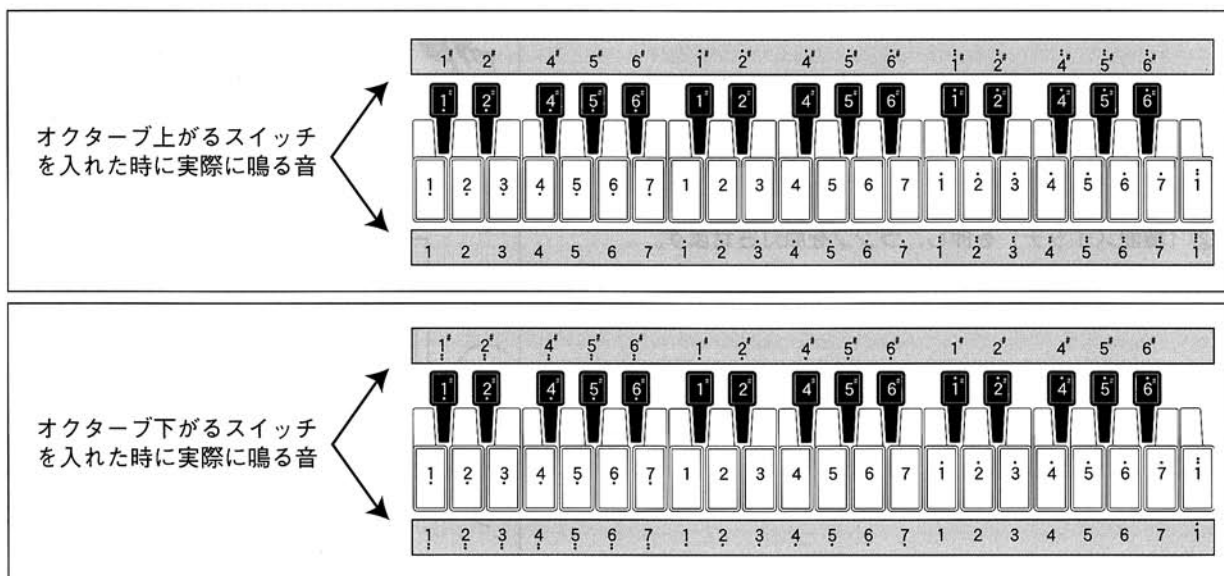
- ① 「オクターブ上がる」もしくは「下がる」スイッチを押し、ランプを点灯させます。



- ② 音を鳴らします。通常設定されている音よりも1オクターブ高い音または、1オクターブ低い音が鳴ります。



- ③ 初期設定の音域に戻すときには、①で押したものと反対のスイッチを押します。ランプが消え、初期設定に戻ります。オクターブスイッチが入っているときの鍵盤と音域の関係は下図のとおりです。



※ 音色を選択すると、その音色のオクターブ初期値に変わります。(それまで設定していたオクターブ値は無効になります。)

打楽器音を鳴らす

本製品には、様々な打楽器音が搭載されています。これらの打楽器音を効果的に使って演奏の幅を広げてみましょう。

打楽器音を鳴らすには以下の操作をおこなってください。

太鼓センサーをたたいて打楽器音を鳴らす

「太鼓センサー」を指でたたくだけで、打楽器音を鳴らすことができます。

電源投入時、「太鼓センサー」にはそれぞれ左から

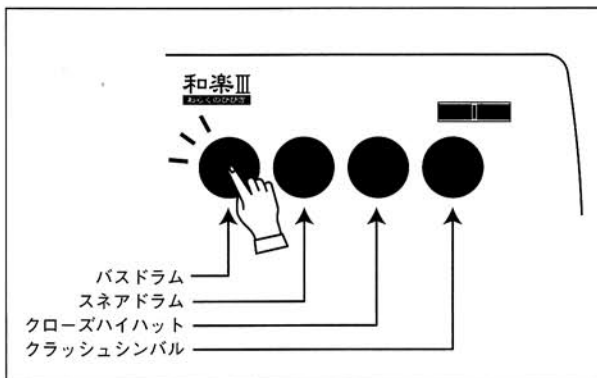
「バスドラム」

「スネアドラム」

「クローズハイハット」

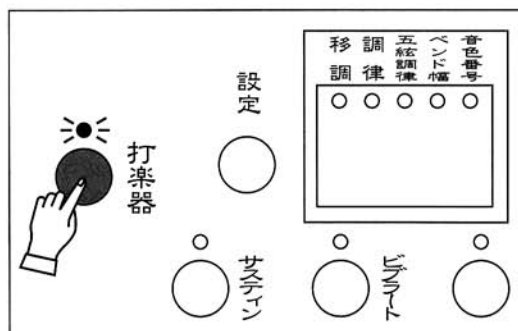
「クラッシュシンバル」

の各打楽器音が登録されています。たたく強さによって音の強弱が変化します。

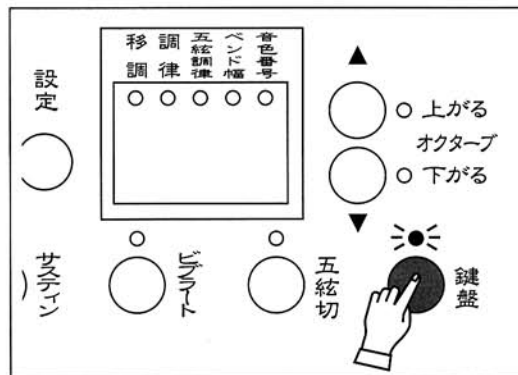


鍵盤で打楽器音を鳴らす

①「打楽器スイッチ」を押し、ランプを点灯させます。



②「鍵盤スイッチ」を押し、ランプを点灯させます。



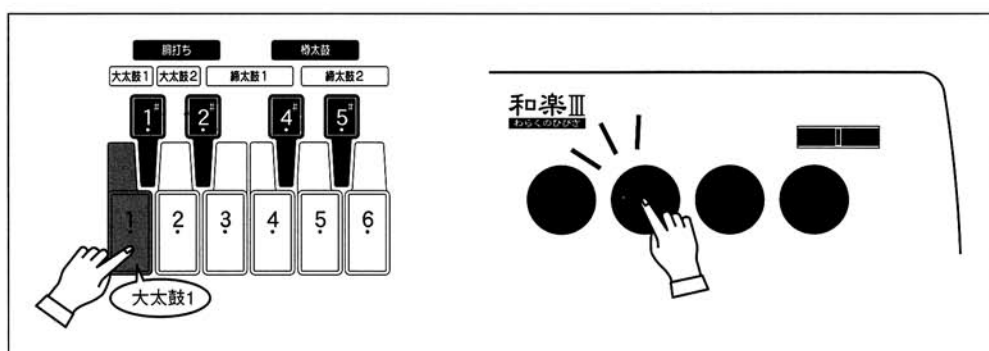
③ 鍵盤を押さえると、それぞれ鍵盤の上下に記されている打楽器音が鳴ります。

打楽器音を太鼓センサーに登録する

初期設定では、太鼓センサーにはそれぞれ左から「バスドラム」・「スネアドラム」・「クローズハイハット」・「クラッシュシンバル」の各打楽器音が登録されています。

4つの太鼓センサーにそれぞれ打楽器音を新たに登録することができます。よく使う打楽器音を登録しておくくと便利です。

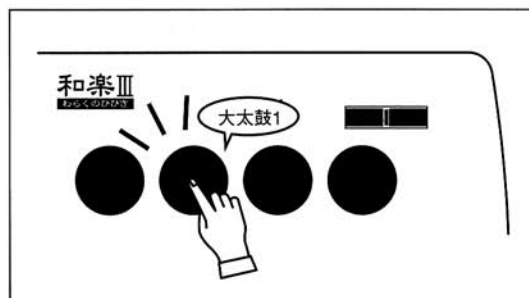
- ① 「鍵盤で打楽器音を鳴らす」と同様の操作をします。
- ② 登録したい打楽器音が鳴る鍵盤を押さえながら、任意の太鼓センサーをたたきます。



「大太鼓1」の鍵盤を押しながら、「太鼓センサー」をたたく。



- ③ 太鼓センサーから、②で選択した打楽器音が鳴れば、登録完了です。



※ 一度電源を切り、再度入れると、太鼓センサーに登録した打楽器音は、初期設定に戻ります。

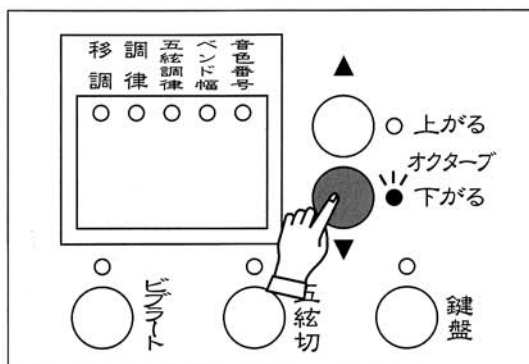
太鼓センサーに最後に登録された記録を呼び出すには、「打楽器スイッチ」を押しながら、電源を入れてください。→ 28 ページ

オクターブスイッチが入っている時の打楽器音を鳴らす

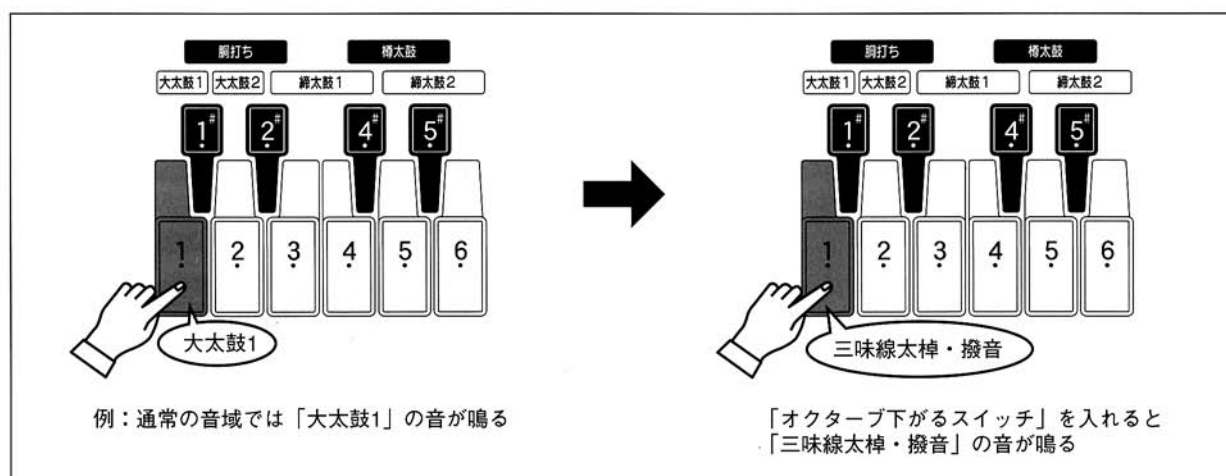
本製品の打楽器音はパネルに表記してあるものだけでなく、「オクターブ上がる/下がる」の併用でさらに多くの打楽器音を鳴らすことができます。

① 「打楽器音を鳴らしてみましょう」と同様の操作をします。

② 「オクターブ上がる/下がるスイッチ」で任意の音域に設定します。



③ 鍵盤を押さえると、オクターブスイッチが入っていないときと同じ鍵盤を押さえても、違う打楽器音が鳴ります。その際の鍵盤と打楽器音名との関係は「打楽器音色一覧表」をご覧ください。→ 53 ページ

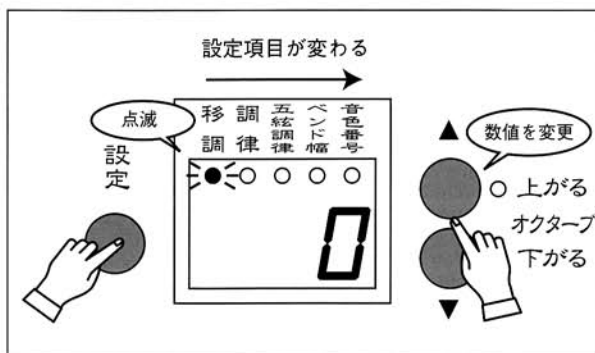


設定スイッチと各設定

「設定スイッチ」は様々な設定を行うのに使います。

スイッチを押す毎に、「移調」→「調律」→「五絃調律」→「ベンド幅」→「音色番号」→設定から抜ける（ランプの点滅がない状態）→「移調」→「調律」… の順に設定項目が変わります。

※「音色番号」に関しては、14ページをご覧ください。



「設定スイッチ」を押した時点で、「オクターブ上がる/下がるスイッチ」は各設定の数値の変更をするためのスイッチとなり、「設定スイッチ」を1回もしくは、数回押して設定から抜けなければ、「オクターブ上がる/下がる」の機能としては使えません。

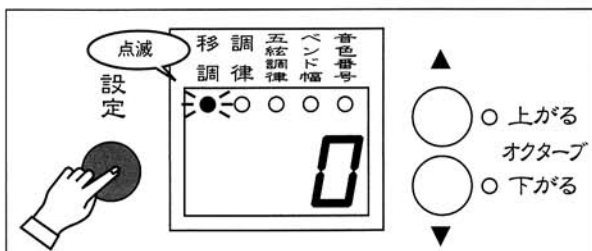
※「打楽器スイッチ」が入っているときは、「音色番号」設定はスキップされますのでご注意ください。

※ 各設定は、電源を切ると初期化されます。（初期設定値に戻ります。）

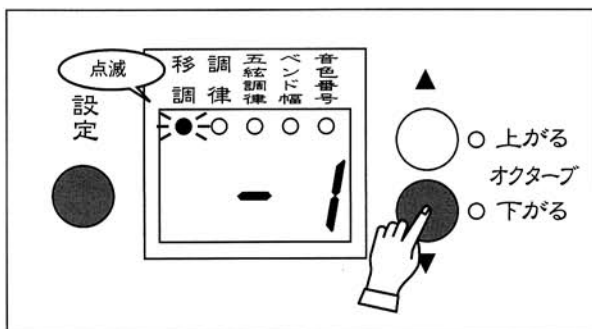
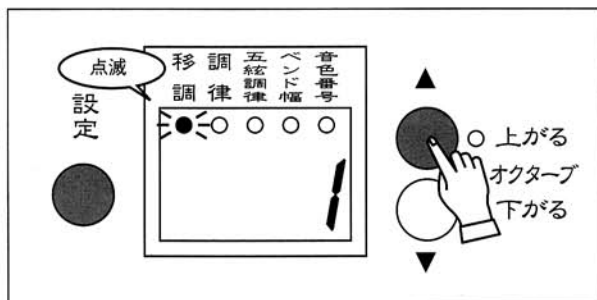
移調をする

他の大正琴や楽器とのアンサンブルなどに便利な移調機能です。初期設定値は「0」（C 調）です。

- ①「設定スイッチ」を押して、「移調」ランプを点滅させます。



- ②「オクターブ上がる/下がる」スイッチを押し、任意の調に合わせます。「上がるスイッチ」を1回押す毎に半音ずつ上がり、「下がるスイッチ」を1回押す毎に、半音ずつ下がります。「オクターブ上がる/下がるスイッチ」を同時に押すと、初期設定値「0」に戻ります。

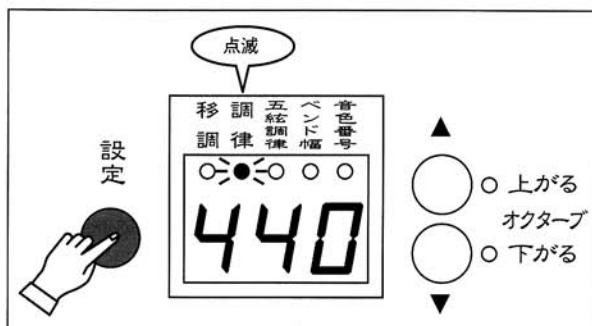


- ③「設定スイッチ」を1回、もしくは数回押していると、設定画面に表示されていた数値が消え、設定から抜けます。初期設定値から数値が変更されている場合、「移調」ランプが点灯して残ります。移調可能な範囲は、半音単位で、-5、-4、-3、-2、-1、0、1、2、3、4、5、6です。

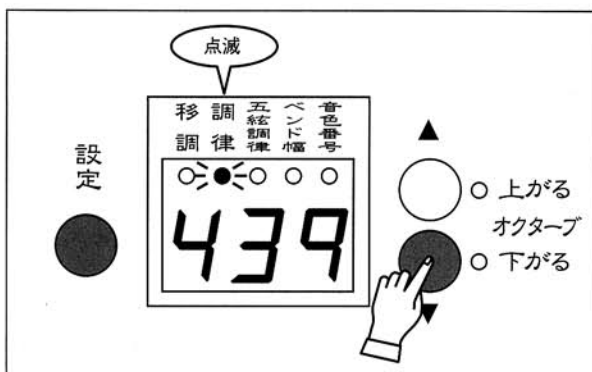
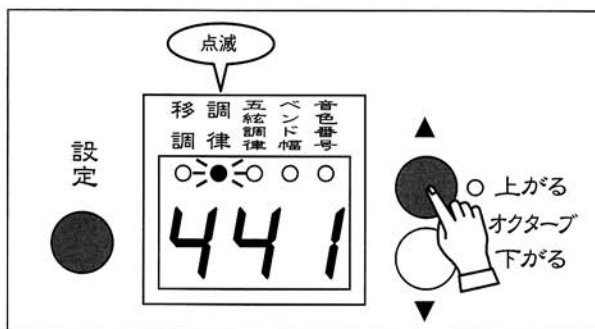
調律をする

「調律」機能で、基本周波数の設定を変えることができます。初期設定値はA=「440 (Hz)」です。

- ①「設定スイッチ」を数回押して、「調律」ランプを点滅させます。



- ②「オクターブ上がる/下がる」スイッチを押し、任意の数値に合わせます。「上がるスイッチ」を1回押す毎に1Hzずつ高くなり、「下がるスイッチ」を1回押す毎に、1Hzずつ低くなります。「オクターブ上がる/下がるスイッチ」を同時に押すと、初期設定値「440」に戻ります。



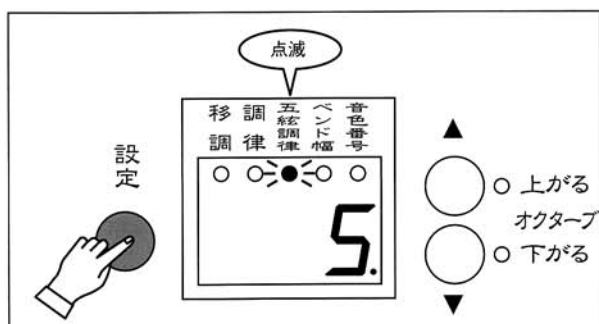
- ③「設定スイッチ」を1回、もしくは数回押していると、設定画面に表示されていた数値が消え、設定から抜けます。初期設定値から数値が変更されている場合、「調律」ランプが点灯して残ります。

周波数変更可能範囲は、438、439、440、441、442、443 (Hz) です。

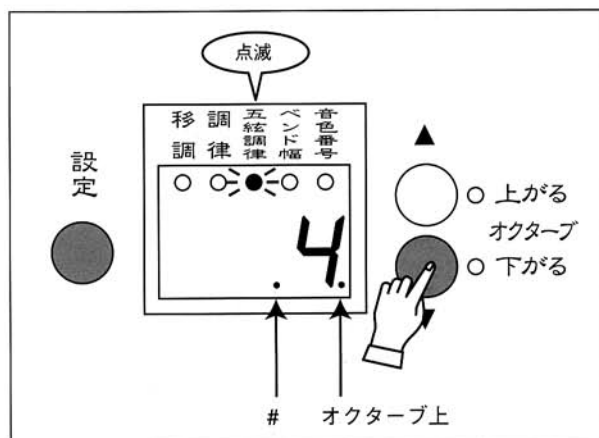
五絃調律をする

一般的な大正琴において、第五絃は常に開放絃の音になっています。曲が変わったり、演奏形態が変わると、それに合わせて第五絃の音を変えることがあります。「五絃調律」は、その第五絃の音を変化させる機能です。初期設定値は「5.」です。

- ①「設定スイッチ」を数回押して、「五絃調律」ランプを点滅させます。



- ②「オクターブ上がる/下がる」スイッチを押し、任意の数値に合わせます。「上がるスイッチ」を1回押す毎に半音ずつ高い音になり、「下がるスイッチ」を1回押す毎に、半音ずつ低い音になります。初期設定では「五絃調律」の中で選択できる一番高い「5.」の音に設定されているので、「下がるスイッチ」でのみ、数値が変わります。「オクターブ上がる/下がるスイッチ」を同時に押すと、初期設定値「5.」に戻ります。



- ③「設定スイッチ」を1回、もしくは数回押していると、設定画面に表示されていた数値が消え、設定から抜けます。初期設定値から数値が変更されている場合、「五絃調律」ランプが点灯して残ります。音変更可能範囲は下表のとおりです。

(数字の前に「.」が付くのは#の意味で、後ろに付くのはオクターブの違いを表しています。)

五絃の音	5	5 #	6	6 #	7	1	1 #	2	2 #	3	4	4 #	5
表示	5	.5	6	.6	7	1	.1	2	.2	3	4	.4	5

※三味線音に関しては、さわり音が発生する音も同時に変わります。(さわり音は「五絃切スイッチ」で消すことができます)

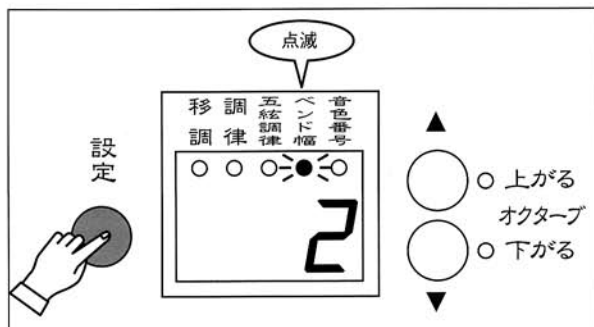
※五絃を弾いて音が鳴る音色と、鳴らない音色があります。詳しくは「第四絃以外を使用する音色」を参照してください。→ 55 ページ

(※五絃を弾いて鳴らない音色は、本設定とは関係ありません。また箏音色の「シュー音」は、本設定を変えても変化はなく、押さえた鍵盤の音程の音が鳴ります)

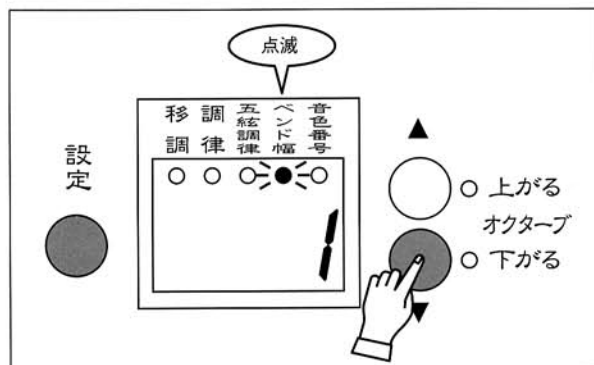
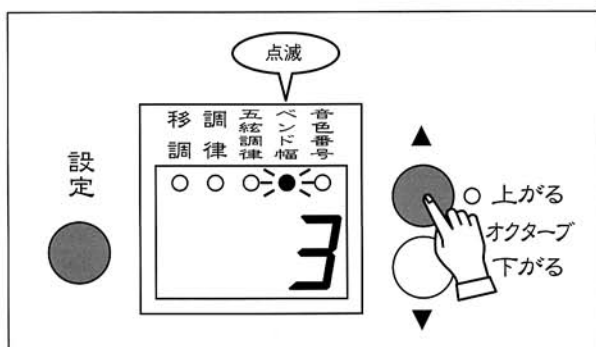
ベンド幅を変える

ピッチベンダーを使うと、音をベンド（音程を変え、節に「こぶし」のような効果を出す）することができます。「ベンド幅」は、その音程の変更幅を設定します。初期設定値は「2」（全音）です。

- ①「設定スイッチ」を数回押しして「ベンド幅」ランプを点滅させます。

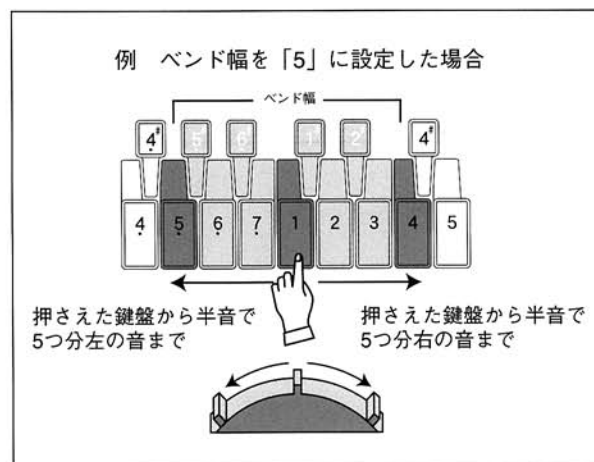


- ②「オクターブ上がる/下がる」スイッチを押し、任意の数値に合わせます。「上がるスイッチ」を1回押す毎に上下半音ずつベンド幅が広がり「下がるスイッチ」を1回押す毎に上下半音ずつベンド幅が狭くなります。「オクターブ上がる/下がるスイッチ」を同時に押すと、初期設定値「2」に戻ります。



- ③「設定スイッチ」を1回、もしくは数回押ししていると、設定画面に表示されていた数値が消え、設定から抜けます。初期設定値から数値が変更されている場合、「ベンド幅」ランプが点灯して残ります。

ベンド幅変更可能範囲は 0、1、2、3、4、5、6、7、8、9、10、11、12です。



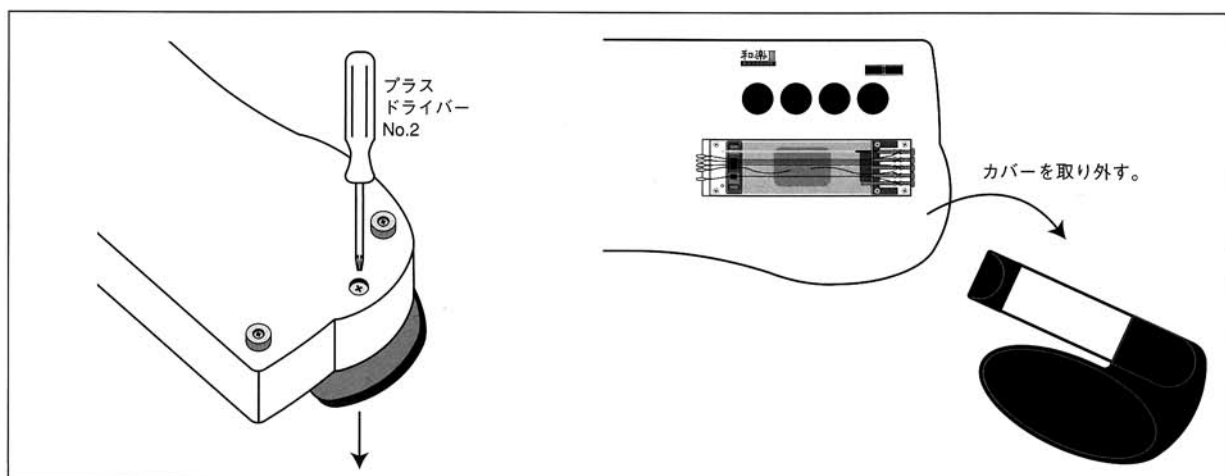
絃センサーの張り替え方

「絃センサー」の絃は、切れるまで張り替えの必要はありません。絃が切れたときには以下の手順で絃を張り替えてください。

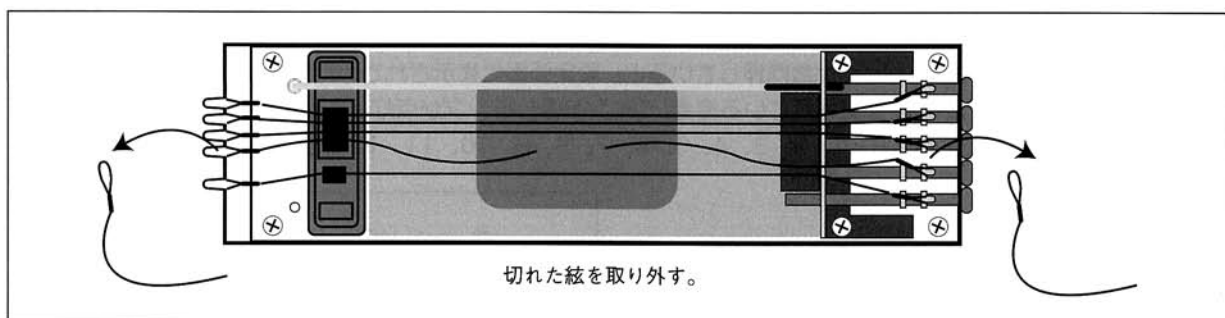
なお、交換用の絃は右表のものをご使用ください。

絃	品 名
第一絃～第四絃	和楽・和楽Ⅲ用 細線
第五絃	和楽・和楽Ⅲ用 太線

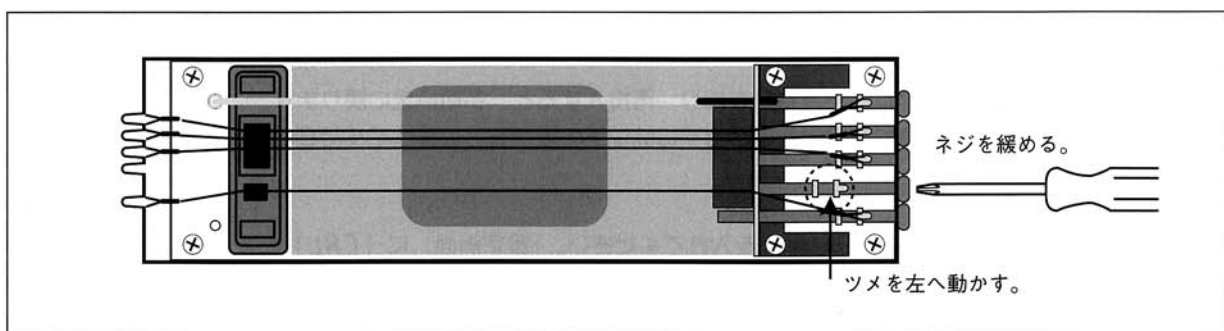
- ① 本体底面のネジ（くぼみにあるひと回り小さなネジです）を外し、絃センサーカバーを外します。



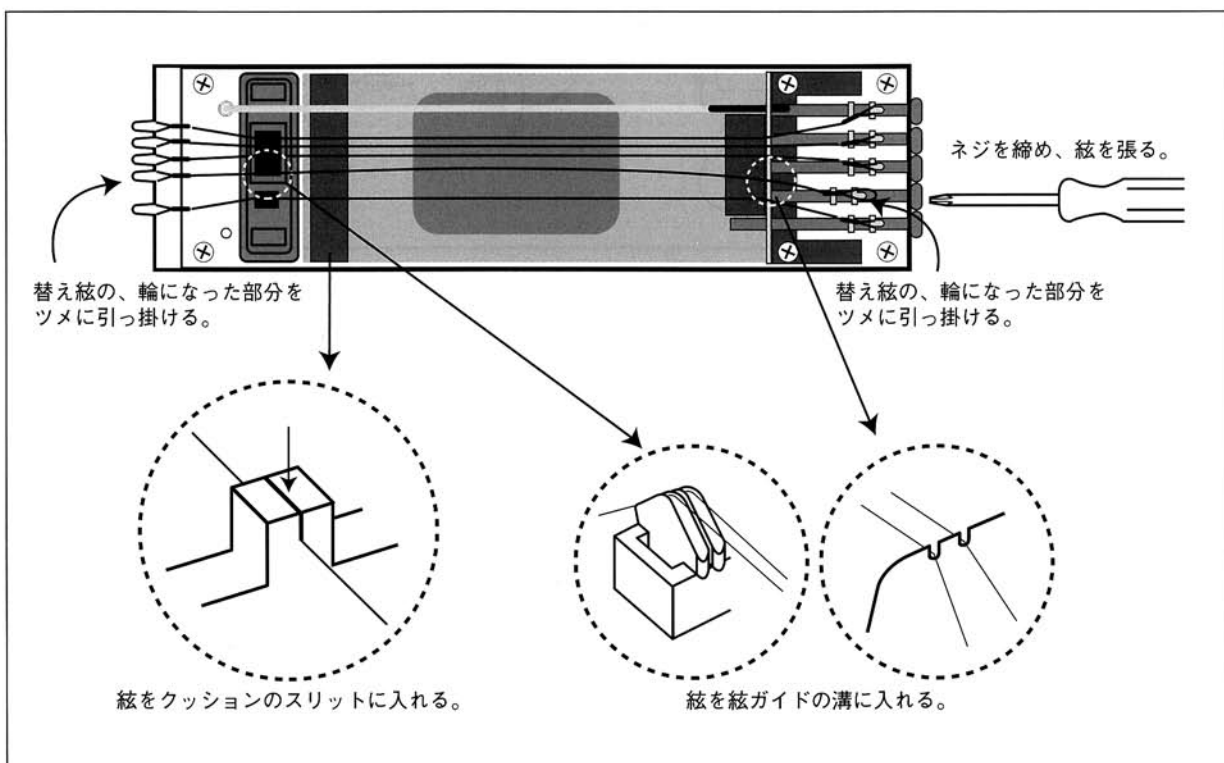
- ② 切れた絃を取り外します。



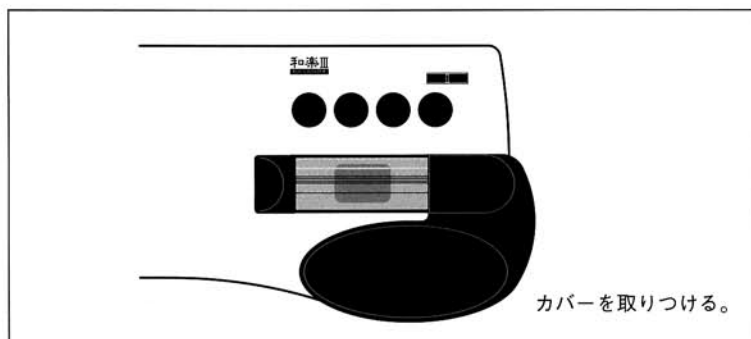
- ③ 切れた絃に対応するネジを緩め、新しい絃をかけられるようにします。



- ④ 絃を「ツメ」に引っ掛け、ネジを締め、絃を張ります。この時、あまり強く張り過ぎると、絃が切れる恐れがありますのでご注意ください。他の絃を参考に、好みにより調節してください。



- ⑤ ①と逆の順序で絃センサーカバーを取り付けます。



特殊な操作をする

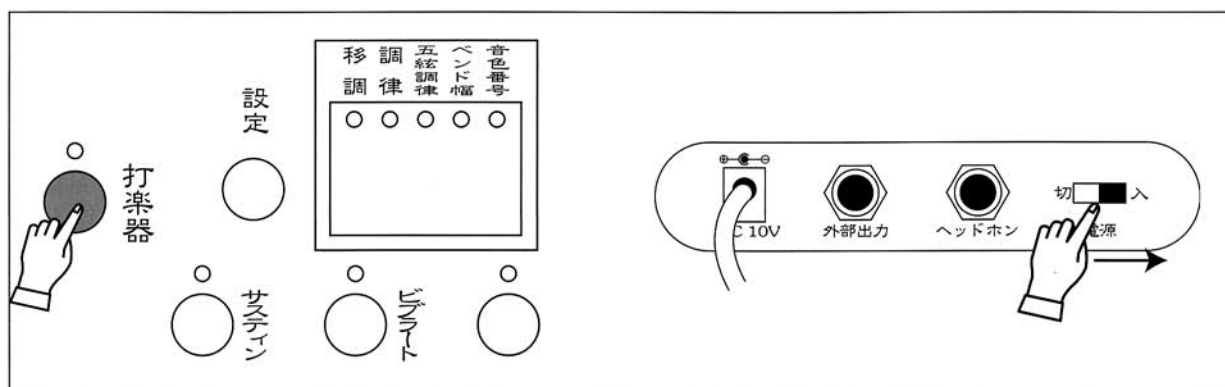
本製品には、様々な詳細設定ができる特殊な操作があります。

太鼓センサーの呼び出しをする

太鼓センサーに登録した音色は、一度電源を切り、再投入すると、初期設定に戻ります。

太鼓センサーに最後に登録された記録を呼び出すには以下の操作をおこなってください。

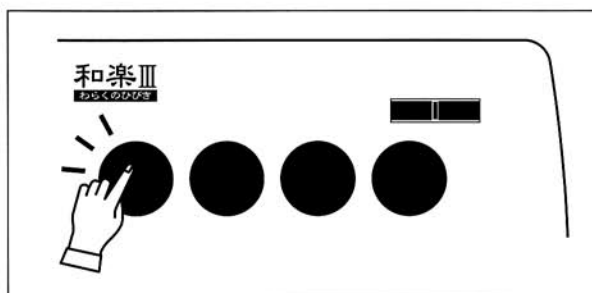
- ① 「打楽器スイッチ」を押しながら、電源を入れてください。「設定画面」に「CAL」と表示されるまで、「打楽器スイッチ」を押したままにしてください。



「打楽器スイッチ」を押しながら、電源を入れる。



- ② 太鼓センサーをたたいて発音させると、電源を切る前に登録されていた打楽器音が鳴ります。

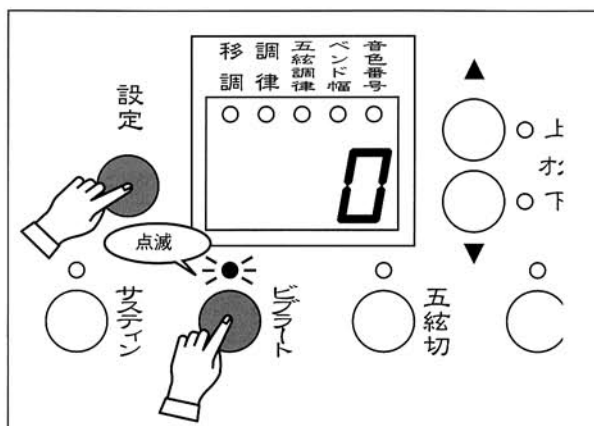


ビブラートスピードを変える

ビブラートスピードとは音程の揺れの速さのことです。本製品は、電源投入時に、各音色に最適なビブラートスピードが割り当てられています。

ビブラートスピードを変更するには、以下の操作をおこなってください。-16～16の間で相対的に変更可能です。

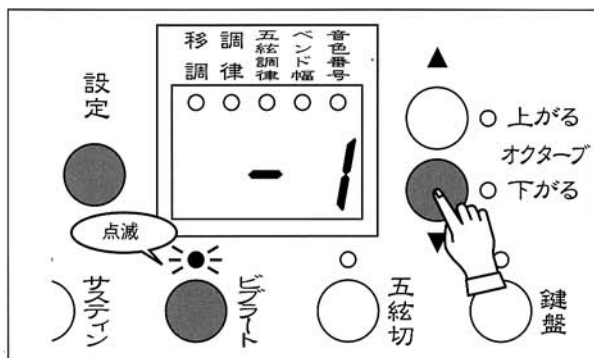
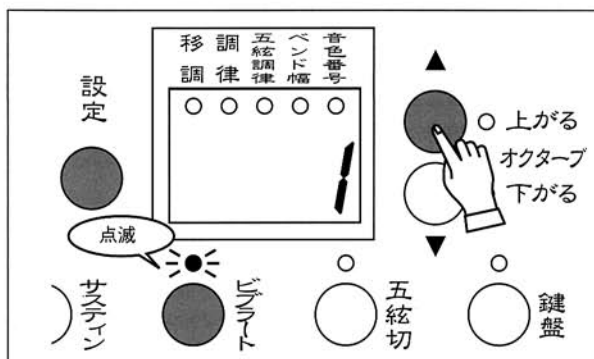
- ①「設定スイッチ」と「ビブラートスイッチ」を同時に1秒以上押し、「ビブラート」ランプを点滅させます。「設定画面」には「0」と表示されます。



2つのスイッチを同時に1秒以上押す

- ②「オクターブ上がる/下がるスイッチ」で、数値を変更します。音色に対応して、相対的に変化します。「上がるスイッチ」を1回押す毎に相対的に1速くなり、「下がるスイッチ」を1回押す毎に相対的に1遅くなります。

「上がる/下がるスイッチ」を同時に押すと、初期設定値「0」に戻ります。

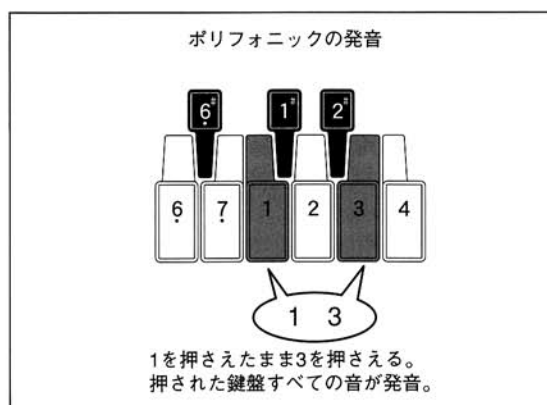
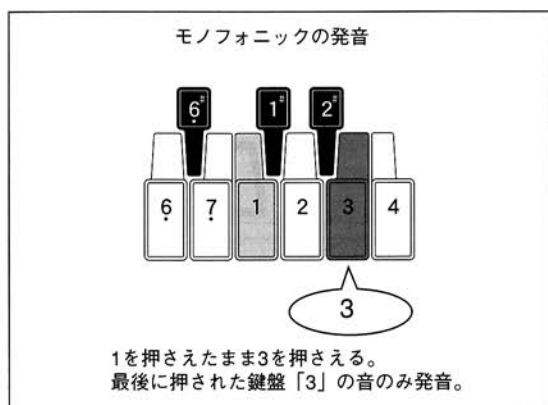


- ③ ①の操作を再度おこなうと、設定から抜けます。再度、設定を切り替えるか電源を切るまで、②の設定が有効になります。

音色のモノフォニック / ポリフォニックを切り替える

「モノフォニック」の場合は、同時に1音しか発音しません。いくつかの鍵盤を同時に押さえたときには、最後押さえた鍵盤の音のみ発音します。（後押優先）

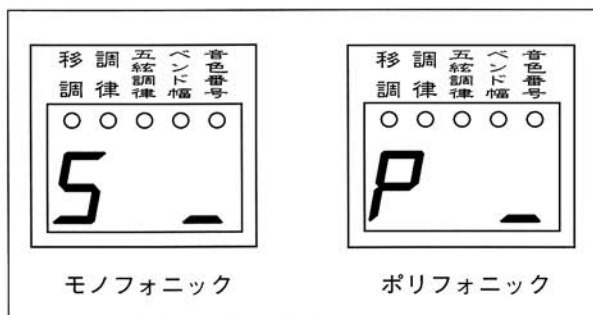
「ポリフォニック」の場合は、和音演奏ができます。



本製品は、電源投入時に、各音色に、絃センサー使用時と、鍵盤使用時について、それぞれモノフォニックまたは、ポリフォニックが割り当てられています。

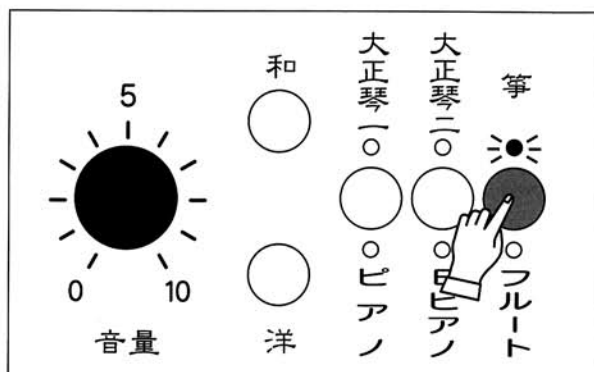
各音色が現在モノ / ポリのどちらに設定されているかは、音色スイッチを押している間、設定画面に表示されます。

このとき、設定画面の左側に、「5」=モノ、または「P」=ポリ と表示されます。右側には絃センサー分割モードの設定が表示されます。→ 32、33 ページ

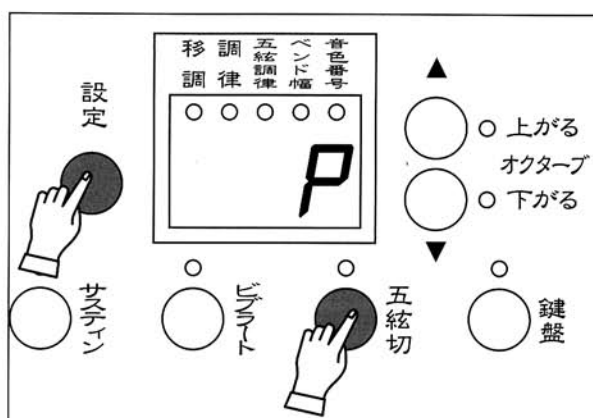


本製品は、この各音色におけるモノ／ボリの設定の切り替えが可能です。切り替えには以下の操作をおこなってください。

- ① モノ／ボリを切り替えたい音色を、「音色スイッチ」で選びます。



- ② 「設定スイッチ」と「五絃切スイッチ」を同時に1秒以上押すと設定が切り替わります。切り替わるまでの1秒間は、現在の設定、「5」=モノ、または「P」=ボリが「設定画面」に表示されます。



2つのスイッチを同時に1秒以上押す



ポリフォニックからモノフォニックへ切り替わる。

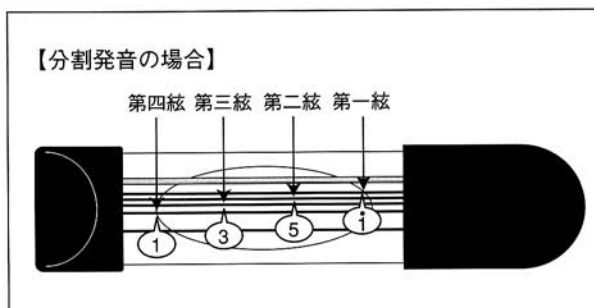
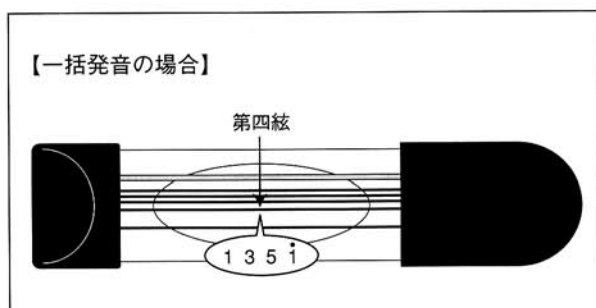
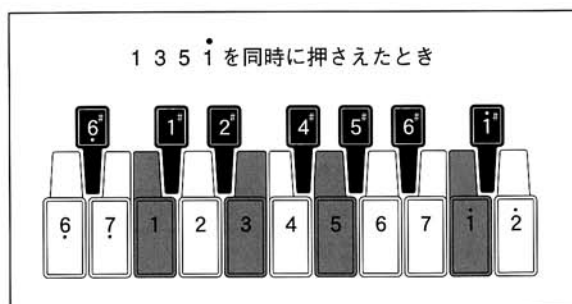
- ③ 複数の鍵盤を押さえ、発音させてみましょう。モノ／ボリの設定が切り替わったことが確認できます。再度、設定を切り替えるか、電源を切るまで①で選択した音色には、②の設定が有効になります。

絃センサーの分割発音 / 一括発音を切り替える

通常、ポリフォニックに設定されている音色は、鍵盤で和音を押さえて「絃センサー」を弾くと、第四絃で全ての音を同時に発音します。（一括発音）

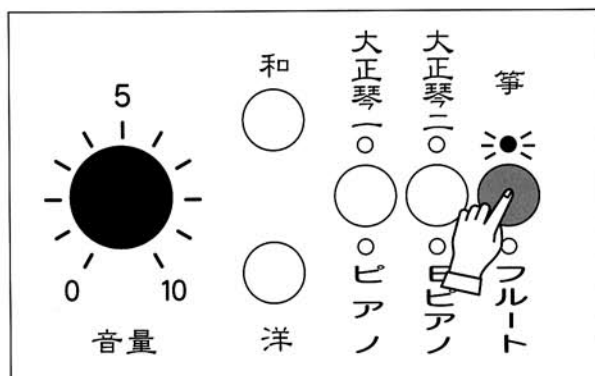
本製品には、和音を押さえて音を鳴らすときに、和音の構成音を1音ずつ、「絃センサー」の各絃に割り当てられる機能があります。（分割発音）

初期設定では、全ての音色は、一括発音になっています。

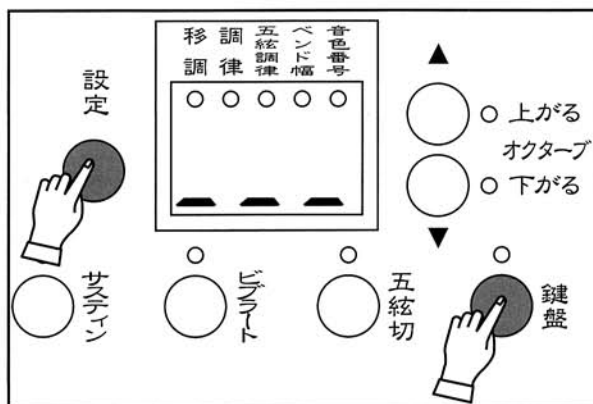


この発音のしかたを切り替えるには以下の操作をおこなってください。

- ① 設定を切り替えたい音色を「音色スイッチ」で選びます。



- ②「設定スイッチ」と「鍵盤」スイッチを同時に一秒以上押すと、「設定画面」には「ミミミ」と表示され、分割モードに切り替わったことを示します。切り替わるまでの1秒間は、初期設定「— — —」=一括モードが表示されています。



2つのスイッチを同時に1秒以上押す



一括発音から分割発音へ切り替わる

- ③ 鍵盤で和音を押さえ、「絃センサー」を第四絃から順に弾いていくと、一絃につき、和音の構成音が1音ずつ発音することが分かります。再度、設定を切り替えるか、電源を切るまで、①で選択した音色には②の設定が有効になります。

分割発音では、モノ / ポリに関係なく、鍵盤で押さえられた4音までが、弾かれた絃に対応して発音します。押された和音の構成音のうち、音程の低い方から順に、第四絃→第三絃→第二絃→第一絃の順に割り当てられます。

(5音以上の和音の場合は逆に、音程の高い方から4音までを左ページ「分割発音の場合」の図のように割り当てられます。)

※ 押さえた鍵盤数が4音に満たない場合は、鳴らない絃があります。

例 2和音の場合 第一絃、第二絃は発音しません。

感度調整をする

本製品には、「太鼓センサー」と「絃センサー」（第一絃～第四絃）の感度を調節する機能があります。感度はそれぞれ1～3の間で調整することができ、初期設定は「2」になっています。

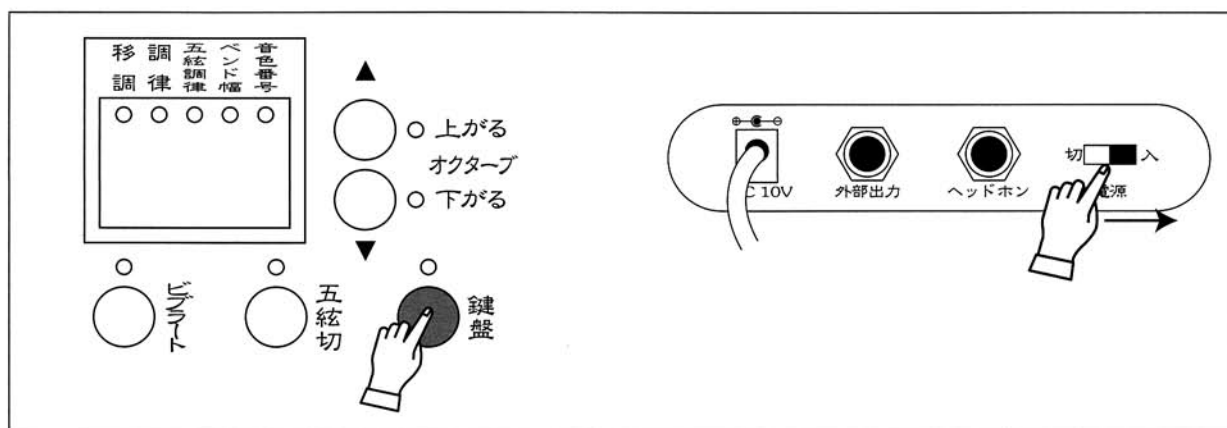
例（太鼓センサーの場合）

感度を「1」にすると、小さな音から、大きな音までたたいたときの変化が大きくなります。

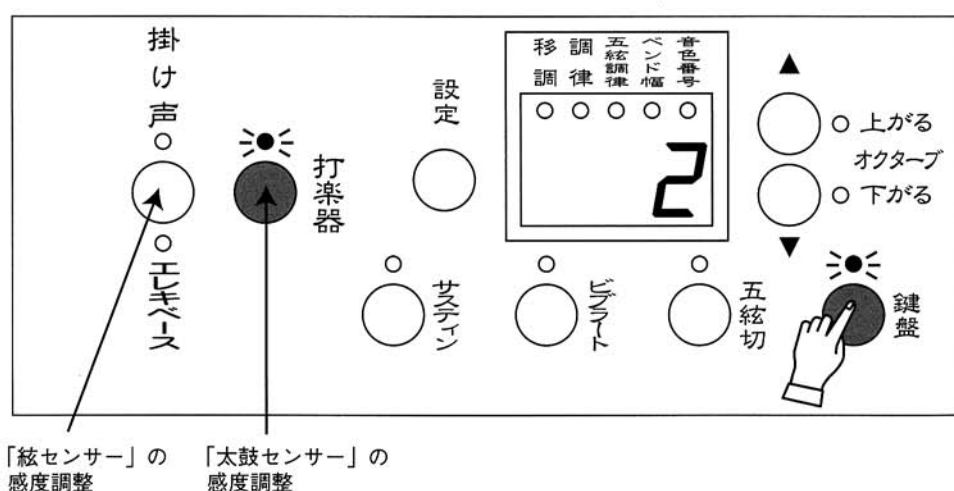
感度「3」にすると、たたく強さによる変化が少なく、演奏しやすい音量が保てます。

感度調整を行うには以下の操作をおこなってください。

- ①「鍵盤スイッチ」を押しながら、電源を入れます。「打楽器スイッチ」のランプが点灯するまで、「鍵盤スイッチ」を押したままにしてください。



「鍵盤スイッチ」を押しながら電源を入れる。
「打楽器スイッチ」のランプが点灯するまで
「鍵盤スイッチ」を押したままにする。



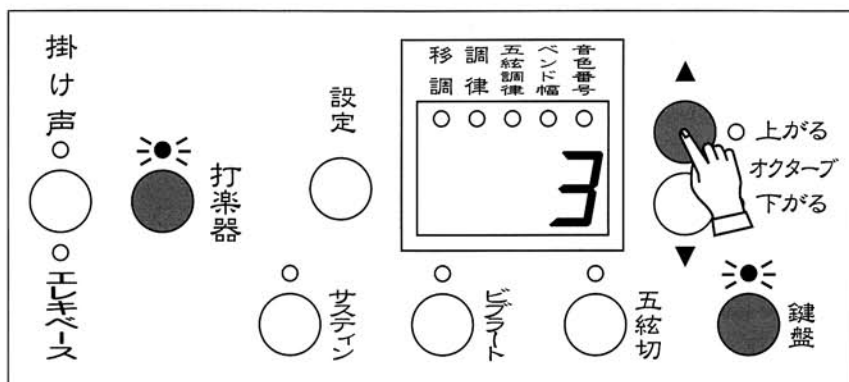
「絃センサー」の感度調整
「太鼓センサー」の感度調整

- ②「打楽器スイッチ」の点灯は、「太鼓センサー」の感度調整が可能な状態を示します。「設定画面」には、現在の設定が表示されます。（初期設定は「2」）

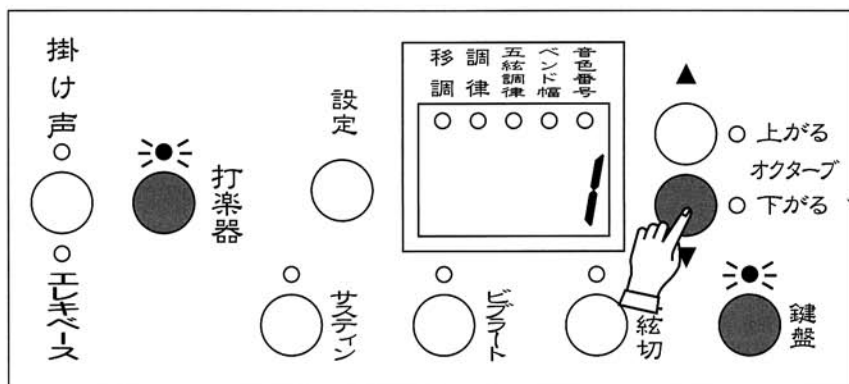
「絃センサー」の感度調整をしたい場合は、「掛け声/エレキベース」スイッチを押し、ランプを点灯させてください。

③ 「オクターブ上がる / 下がるスイッチ」で数値を変更します。

「上がるスイッチ」を押すと「3」が表示され、「太鼓センサー」をたたいたり、「絃センサー」を弾いたときの強さによる音の大きさの変化が少なくなります。



「下がるスイッチ」を押すと「1」が表示され、「太鼓センサー」をたたいたり、「絃センサー」を弾いたときの強さによる音の大きさの変化が大きくなります。



④ 「設定スイッチ」を押すと決定し、通常演奏できる状態になります。

※ 「設定スイッチ」を押さずに電源を切った場合、それまで変更した値は無効となります。

エクスプレッションペダルを接続する

本製品は別売のエクスプレッションペダルV-20Hを接続することができ、演奏の表現力を高めたり、両手演奏時の音量調整ができます。

さらに設定を切り替えると、ボリュームペダルとしても使用することができます。初期設定では、エクスプレッションペダルとして機能する設定になっています。

エクスプレッションとは

- ・ 管楽器や弦楽器のように、「抑揚」をコントロールします。
- ・ 擦弦楽器や管楽器は演奏の強さによって音量だけではなく、音色も変化します。エクスプレッションはこれを模倣したものです。情感を含めたメロディを演奏する場合に使用すると効果的です。
- ・ 大正琴やピアノといった減衰する音色の場合は、鍵盤を弾いた時点での音の大きさを操作できますが、減衰中の大きさは操作できません。

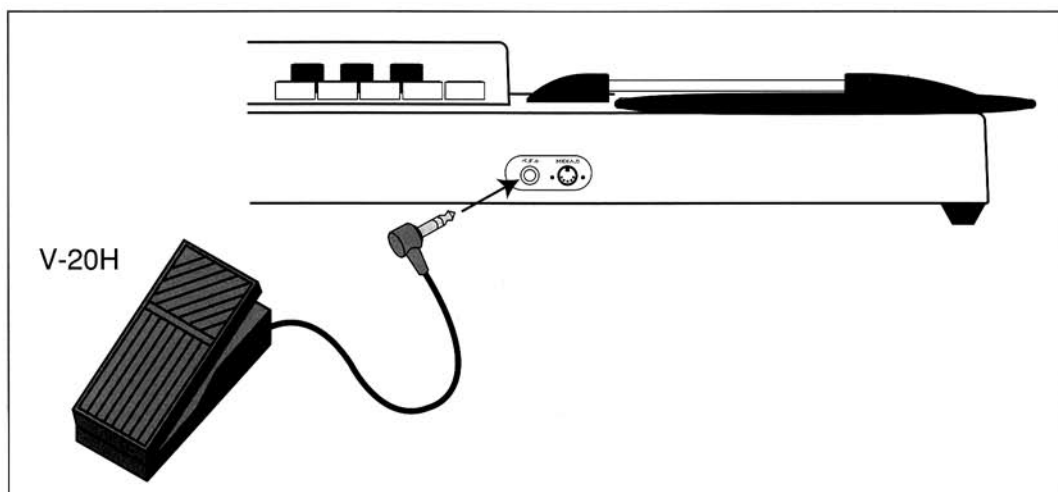
ボリュームとは

- ・ 単に「音」の大きさをコントロールします。
- ・ アンサンブルで一時的に各パート間のバランスをとる場合に使用します。
- ・ 大正琴やピアノといった減衰する音色の場合は、減衰中でも音の大きさを操作することができます。

V-20Hを使用するには、以下の操作をおこなってください。

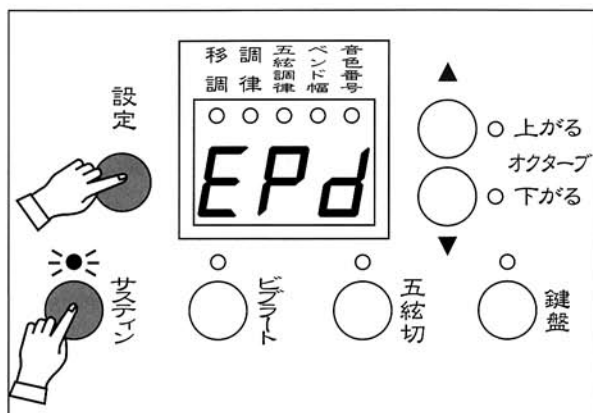
エクスプレッションペダルとして使用するには

- ① V-20Hを「ペダル」端子へ接続します。



- ②「設定スイッチ」と「サステンスイッチ」を同時に押すと、「設定画面」には現在の設定が表示されます。「設定画面」に「EPd」と表示されれば、V-20Hはエクスプレッションペダルとして機能します。音を鳴らしながら、V-20Hを踏み込むと、その度合いによって、音に抑揚がつきます。

- ③ ②の操作をおこなって、「設定画面」に「LPd」と表示された時は、V-20Hはボリュームペダルとして機能する設定になっています。「設定スイッチ」と「サステンスイッチ」を同時に1秒以上押してください。「設定画面」に「EPd」と表示されエクスプレッションペダルとして機能する設定に切り替わります。



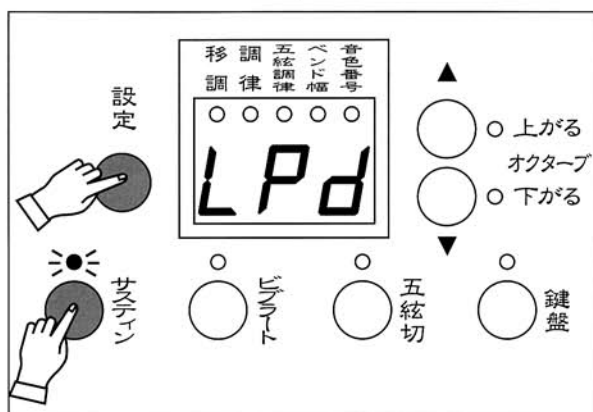
エクスプレッションペダルとして使用できる状態。

2つのスイッチを同時に1秒以上押して
エクスプレッション/ボリュームを切り替える。



ボリュームペダルとして使用するには

- ① V-20Hを「ペダル」端子へ接続します。
- ②「設定スイッチ」と「サステンスイッチ」を同時に押すと、「設定画面」には現在の設定が表示されます。「設定画面」に「LPd」と表示されれば、V-20Hはボリュームペダルとして機能します。音を鳴らしながら、V-20Hを踏み込むと、その度合いによって、音量が変化します。
- ③ ②の操作をおこなって、「設定画面」に「EPd」と表示された時は、V-20Hはエクスプレッションペダルとして機能する設定になっています。「設定スイッチ」と「サステンスイッチ」を同時に1秒以上押してください。「設定画面」に「LPd」と表示されボリュームペダルとして機能する設定に切り替わります。



ボリュームペダルとして使用できる状態。

※ V-20Hを接続していない時に上記の操作をおこなっても変化はありません。

※ ペダルをいっぱいに戻したときの状態（変化量）は、V-20Hのミニマムボリュームで調整します。V-20Hの取扱説明書も併せてご覧ください。

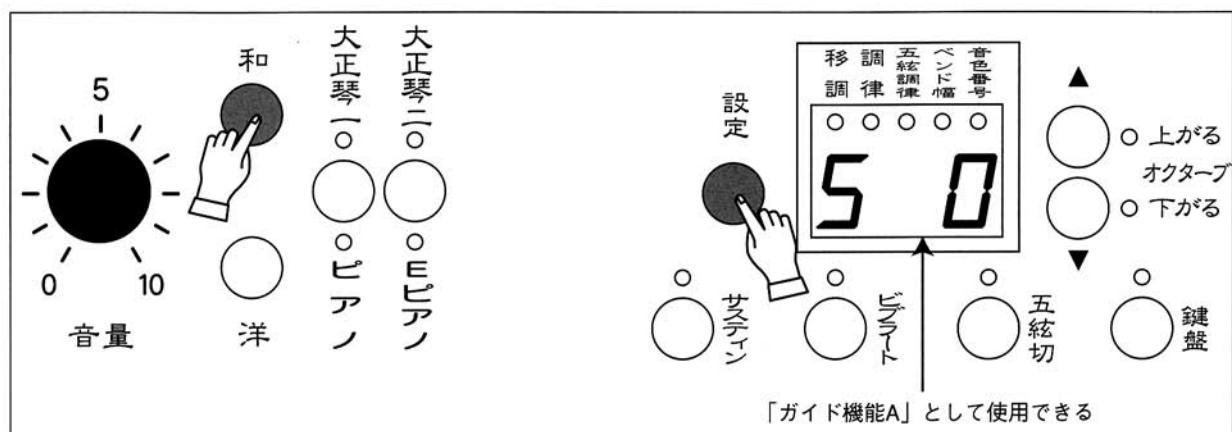
強弱のガイド機能を使う

本製品には、「絃センサー」を弾いた強さの値と、「太鼓センサー」をたたいた強さの値を示すガイド機能（A）、エクスプレッションペダルV-20H接続時における、ペダルを踏み込んだ強さの値を示すガイド機能（B）があります。目で見えて強弱が確認できるので、演奏の目安として便利です。最大値は99です。

これらの機能を使うには以下の操作をおこなってください。

ガイド機能 A

- ①「設定スイッチ」と「和スイッチ」を同時に1秒以上押します。「設定画面」に「5 0」と表示されます。

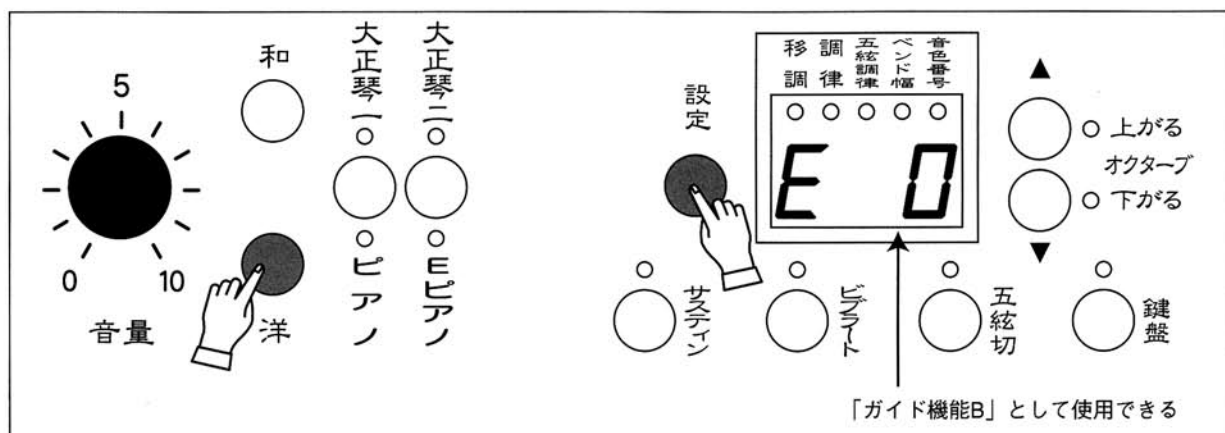


2つのスイッチを同時に1秒以上押す

- ②「絃センサー」を弾くと「設定画面」の数値が弾く強さによって変化します。「太鼓センサー」も同様で、たたく強さによって数値が変化します。
- ③ ガイド機能 A から抜けるには①の操作を再度おこなってください。

ガイド機能 B（エクスプレッションペダル V-20H 接続時）

- ① 「設定スイッチ」と「洋スイッチ」を同時に 1 秒以上押します。「設定画面」に「E_{xx}」（xx は数値）と表示されます。



2つのスイッチを同時に1秒以上押す

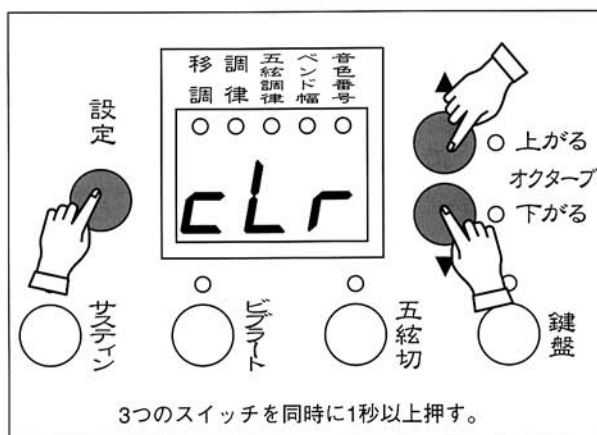
- ② V-20H を踏み込むと「設定画面」の数値が踏み込む強さによって変化します。（エクスプレッションペダル時、ボリュームペダル時のどちらも有効です。）
- ③ ガイド機能 B から抜けるには①の操作を再度おこなってください。

初期化する

初期化すると、設定した数値や内容がクリアされます。初期化には、電源投入時に戻す方法と、購入時に戻す方法の2種類があります。

A. 電源投入時の状態に戻す

- ①「設定スイッチ」と「オクターブ上がる/下がるスイッチ」の3つのスイッチを同時に1秒以上押します。
- ②「設定画面」に「CLP」と表示され、電源投入時の状態に戻ります。



注 記

太鼓センサー： センサーの配列は電源投入時に戻りますが、最後に登録した内容はメモリ内に残っていますので、電源投入時の太鼓センサーの呼び出して呼び出すことができます。→28ページ

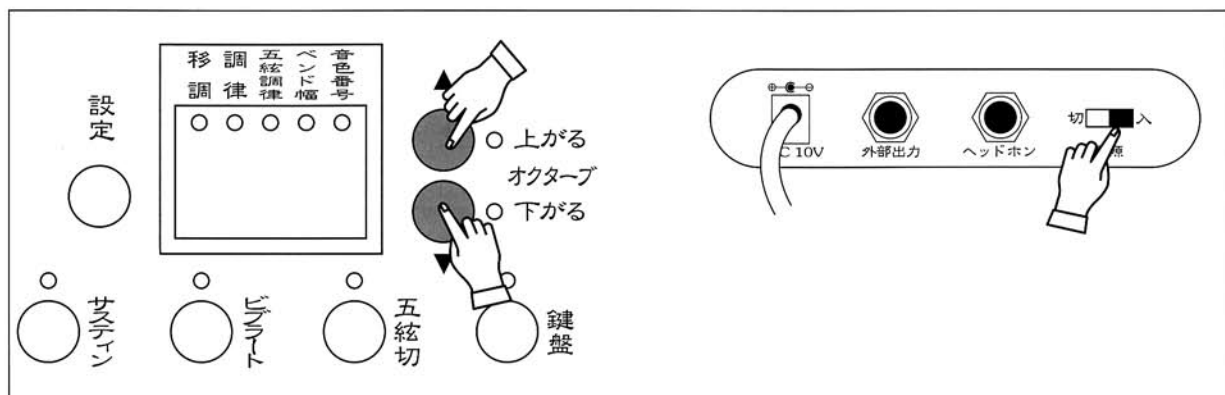
感度調整の値： クリアされません。最後に設定した値のままです。

各音色の設定： クリアされます。(モノ/ポリ・ビブラートスピード・分割発音設定・サステインの状態等)

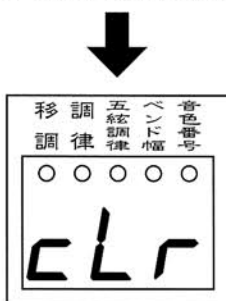
B. 購入時の状態に戻す

設定された内容はすべてクリアされ、本製品をご購入された時の状態に戻ります。

- ① 電源を切ります。
- ② 「オクターブ上がる / 下がる」の両スイッチを押しながら、電源を入れます。
- ③ 「設定画面」に「cLr」と表示されるまで「オクターブ上がる / 下がるスイッチ」を押したままにしてください。ご購入時の状態に戻ります。



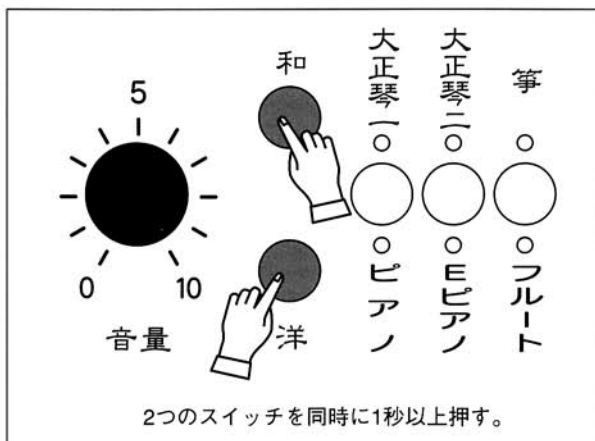
2つのスイッチを同時に押したまま電源を入れる。



オールノートオフをする

「オールノートオフ」とは、何らかの原因で音が止まらなくなってしまったときに、発音している全ての音を消す機能です。オールノートオフするには以下の操作をおこなってください。

- ① 和/洋切り替えスイッチを同時に一秒以上押します。



- ② ①で音が消えない場合は、電源を切り、再投入してください。それでも音が消えなければ、お買い上げ販売店、スズキ各営業所またはスズキお客様相談窓口にご連絡ください。

MIDI について

MIDI とは？

MIDI とは、"Musical Instruments Digital Interface" の略で、楽器どうしを接続して演奏情報をやりとりするための統一規格です。

MIDI 機器同士の接続には MIDI ケーブルを使用し、ある機器の MIDI OUT から別の機器の MIDI IN へ接続します。

受信チャンネルとパート

本製品では MIDI 情報の受信のみが可能です。

受信可能な MIDI チャンネルとパートは、下表の通りです。

パート	MIDI CH	コメント
1	1	本体の鍵盤と共用。
2～9	2～9	本体とは独立したパート。
10	10	打楽器用。
11～16	11～16	本体とは独立したパート。

本製品ではパートと MIDI チャンネルは 1 対 1 で対応しており、変更できません。

パート 1 は、本体の演奏と共有しており、本体の演奏表現を拡張するのに使用します。

パート 2～9 及び 11～16 は、本体の演奏とは別に、外部機器で本製品を演奏するためのパートです（打楽器以外）。

パート 10 は打楽器専用のパートで、外部機器で本製品の打楽器音を演奏するためのパートです。

受信可能なメッセージ

本製品で受信できるメッセージは、以下の通りです。

- ・ノートデータ
- ・ピッチベンド
- ・コントロールチェンジ
- ・システムエクスクルーシブメッセージ

詳細は MIDI リファレンス（48～51 ページ）及び、付表（52～54 ページ）をご覧ください。

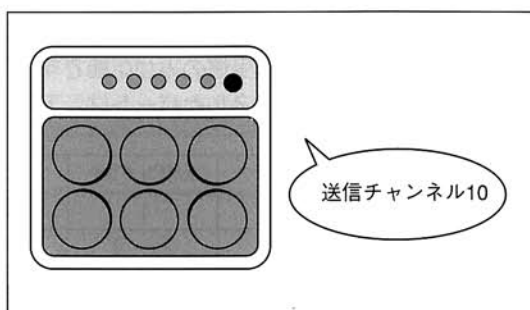
MIDI の使用例

◆ MIDI ドラムパッドを接続する

市販のMIDIドラムパッドを接続して、本製品の打楽器音を演奏します。より打楽器らしい演奏が可能になるほか、本体の演奏とのアンサンブルも可能です。

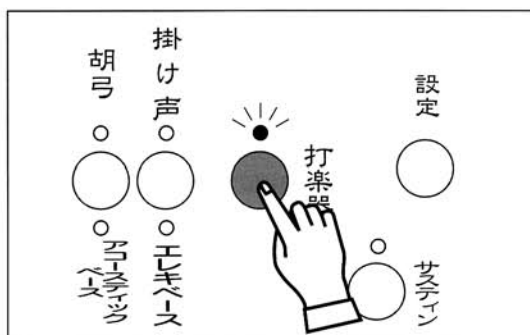
MIDI ドラムパッドの設定

MIDI ドラムパッドの送信MIDIチャンネルを「10」に設定して下さい。MIDI ドラムパッドの取扱説明書もご参照下さい。

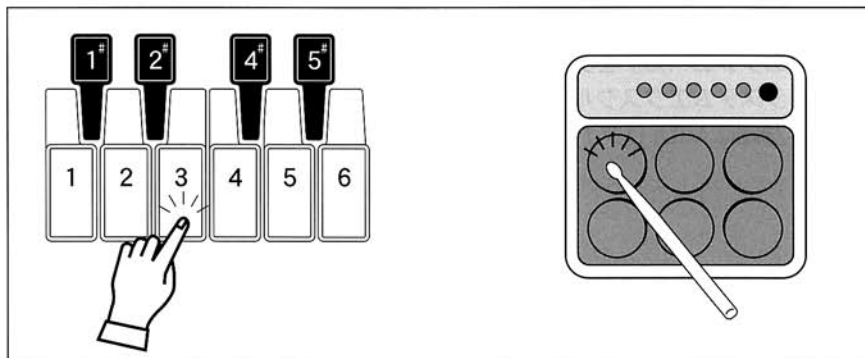


各パッドに打楽器音色を登録する

① 本製品の音色ボタンを「打楽器」にします。



② 登録したい打楽器音色の鍵盤ボタンを押しながら、MIDI ドラムパッドの登録したいパッドを叩きます。



③ 別のパッドにも打楽器音を割り当てるには、上記2の操作を繰り返して下さい。

④ 登録が終わったら誤操作を防ぐため、本製品の音色ボタンを「打楽器」以外にして下さい。

これで本体の演奏と MIDI ドラムパッドとのアンサンブル演奏ができるようになりました。

◆ MIDI キーボードを接続する

MIDIキーボードを接続して、より表現力の高い演奏や、二人で本製品の音色を使って演奏をすることができます。

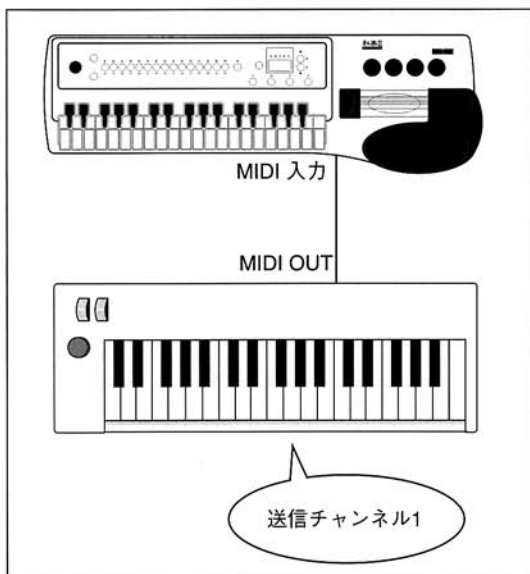
MIDI キーボードでの演奏表現

本製品の鍵盤ボタンには弾いた強さを感知するペロシティがありませんが、MIDIキーボードを使用してペロシティを付けることにより、より表情豊かな表現が可能です。

MIDIキーボードを接続し、送信MIDIチャンネルを1にします。これで MIDI キーボードによる演奏の音色を本体で操作できるようになります。

本製品の「ひちりき」、「能管」、「胡弓」は、レガートに演奏すると音程が滑らかに変化するポルタメントが働きますが、ペロシティによりその速さをコントロールすることができます。

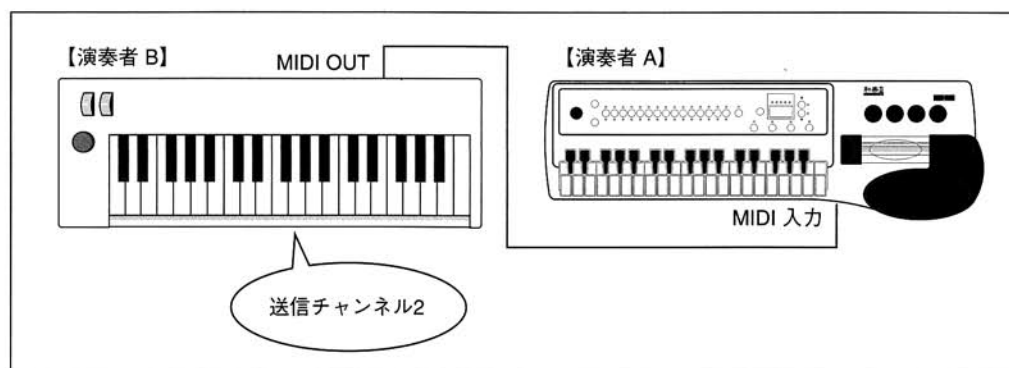
「ピアノ」などの和音が演奏できる音色では、一音ごとの音の強さが表現でき、よりピアノらしい演奏が可能になります。



◆ 二人で演奏する

一人は本体の演奏、もう一人は MIDI キーボードで本製品の音色を使った演奏をします。

- ① MIDI キーボードの送信チャンネルを 2～9、11～16 のいずれかにします。

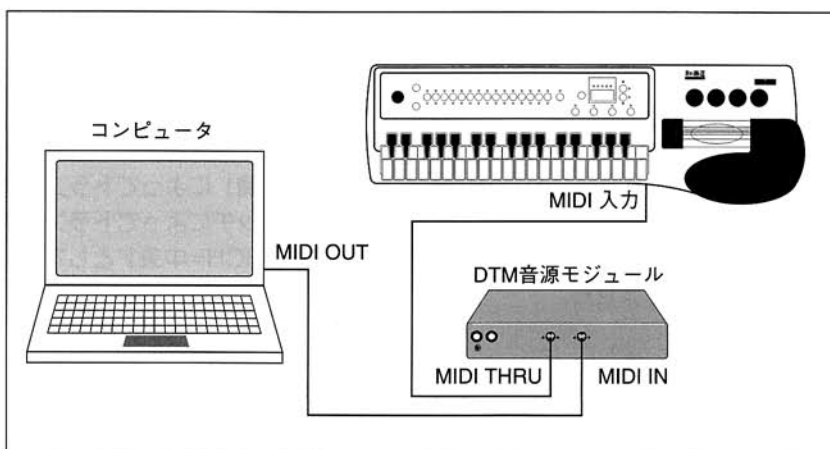


- ② 21 ページの音色番号一覧表を参考に、MIDI キーボードで演奏する音色のプログラムチェンジを送信します。
プログラムチェンジの送信方法はご使用になる MIDI キーボードの取扱説明書をご参照下さい。

これで本体の演奏とは別に、MIDI キーボードを使用した演奏もできるようになりました。

◆ DTMのサブ音源として使用する

一般的なDTM音源に搭載されている和楽器音色は邦楽を演奏する場合には不十分な場合があります。DTMで和楽器音色を補完するために本製品を使用します。



音源の初期化

本製品を初期化するために曲データの先頭に入れるエクスクルーシブメッセージは、次のように入力して下さい。これにより、本製品の各パートが初期化され、MIDI 情報により曲データを演奏する準備ができます。

F0 55 00 20 0F 70 00 F7

受信チャンネルの設定

他の音源と同一ポートで本製品を使用する場合、本製品は基本的に全チャンネルを受信して発音してしまうので他の音源と音がだぶってしまいます。本製品で発音させたくないパートをオフにするには、曲データ中に次のようにエクスクルーシブメッセージを入力して下さい。

F0 55 00 20 0F 20 01 xx vv F7

xx には設定したいパート番号 -1 の値を入力します。例えばパート2の場合は 01 を入力します。

vv にはオフにしたい場合は 00、オンにしたい場合は 7F を入力します。

MIDI リファレンス

◆ チャンネルメッセージ

【ノート・オフ】

9x nn 00 または 8x nn vv

【ノート・オン】

9x nn vv

発音処理を行います。

- ・発音するノートナンバーは、本体パネルの「移調」によってトランスポーズされます。
- ・パート1の場合、本体パネルのオクターブスイッチによってトランスポーズされます。
- ・その他のパート(10を除く)においては、nnが3CH=中央ドとして動作し、音色による初期オクターブ値の影響は受けません。

【モジュレーション】

Bx 01 vv

バリューに応じたビブラート効果を付加します。

本体の圧力センサーと同じ意味をもちます。

- ・音色によっては受信しないものもあります。(打楽器音、最初から波形でビブラートがかかっているもの)

初期値=0

【ビブラート・スイッチ】

Bx 50 vv

ビブラートスイッチのOn/Offを行います。

初期値=0

vv:0 ~ 3F=Off:, 40 ~ 7F=On

ビブラートの深さ = Modulation × Vibrato(On/Off)

【ポルタメント・タイム】

Bx 05 vv

【ポルタメント】

Bx 41 vv (vv:0 ~ 3F=Off, 40 ~ 7F=On)

ポルタメントのタイム及びオンオフを上記2パラメータで設定します。

- ・ポルタメント効果はそのパートが「モノ」であるときのみ有効です。
- ・打楽器パートは受信しません。

【エクスプレッション】

Bx 0B vv

バリューに応じた抑揚表現を行います。

- ・初期値として好ましい位置は音色によって違うため、音色を選んだ時点で、その音色の初期値に再設定されます。

【ボリューム】

Bx 07 vv

パート間の音量バランスを調節します。

初期値=100

音量 = Velocity × Volume × Expression × パネル上のボリューム(オーディオ)

【サスティン・スイッチ】

Bx 51 vv

サスティンスイッチの On/Off を行います。

初期値=0

vv:0 ~ 3F=Off, 40 ~ 7F=On

【RPN】【データ・エントリー MSB】

Bx 64 00 65 00 06 mm

RPN およびデータエントリーは、ピッチベンド幅の設定に使用します。

ピッチベンド幅の初期値は 2(全音)です。

【リセット・オール・コントローラー】

Bx 79 vv

このメッセージを受信すると、該当パートの以下のコントローラが初期化されます。

- ・ Moduration=0
- ・ Expression= 音色に応じた初期値
- ・ Pitch Bend= 中央(40 00)
- ・ RPN= 未設定(7F 7F)
- ・ バリューは無視されます。

【ポリ・モード】

Bx 7F mm

そのパートをオールノートオフ後、ポリモードにします。

- ・ バリューは無視されます。

【モノ・モード】

Bx 7E mm

そのパートをオールノートオフ後、モノモードにします。

バリューは無視されます。

【オール・ノート・オフ】

Bx 7B mm

そのパートでオンになっているノートを全てオフします。

- ・ バリューは無視されます。

【ピッチ・ベンド】

Ex ll mm

mm ll : 00 00(最低) ~ 40 00(中央) ~ 7F 7F(最高)

現在そのパートで鳴っているノートの音程を変更します。

- ・可変幅はRPN(パート2 ~ 16)や本体(パート1)で設定されたピッチベンド幅によります。

【プログラム・チェンジ】

Cx vv

そのパートの音色を切り替えます。

- ・発音中の音はオフされます。
- ・コントローラはリセットしません。
- ・ピッチベンド幅はリセットません。
- ・モノノポリ及びポルタメントはその音色の初期値にセットされます。
- ・エクスプレッションはその音色にふさわしい初期値にセットされますが、パート1の場合、エクスプレッションペダルが接続されていればその値を適用します。
- ・パート1の場合、本体鍵盤のオクターブはその音色の初期値にセットされます。

◆ システム・エクスクルーシブ・メッセージ

【リセット】

F0 Exclusive Header
55 Manufacture ID
00 All Device
20 Model ID MSB
0F Model ID LSB
70 Command(Reset)
00 Type(All)
F7 End of Exclusive

本製品を初期化します。

- ・電源投入時と同じ状態になります。
- ・全てのパートのノートが発音を停止します。
- ・音色や音量は初期値に。
- ・コントローラはリセットされます。
- ・打楽器音色マップは、デフォルト値が再ロードされます。

【ミュート】

F0 Exclusive Header
55 Manufacture ID
00 All Device
20 Model ID MSB
0F Model ID LSB
20 Command(Part Setting)
01 Type(Mute)
xx Part #(00=Part 1, 01=Part 2...)
vv Value(00-3F=Mute, 40-7F=Enable)
F7 End of Exclusive

各パートのミュートを行います。

- ・ミュートされたパートは、以降のノートオンを処理しません。
- ・同パートで既に発音しているノートは、このメッセージでは消音しません。

付 表

音色番号一覧表

プログラムNO.	Ch.1-9,11-16	
1	大正琴一（ゆり）	1～4絃音
2		細線単音
2		細巻線単音
4		太巻線単音
5		打鍵音
6	大正琴二（蘭ソプラノ）	1～4絃音
7		細線単音
8		細巻線単音
9		太巻線単音
10		打鍵音
11	大正琴三（タイプII）	1～3絃音
12		単音
13	大正琴四（蘭アルト）	1～4絃音
14		細線単音
15		細巻線単音
16		太巻線単音
17	大正琴五（蘭バス）	1～2絃
18		1 絃単音
19		2 絃単音
20	箏	通常音
21		スクイ音
22		シュー音
23	十七絃	通常音
24		スクイ音
25	唐琴	通常音
26		スクイ音
27	三味線一（太棹）	通常音
28		スクイ音
29		開放音
30	三味線二（細棹）	通常音
31		スクイ音
32		開放音
33	琵琶	通常音
34		スクイ音
35		開放音
36	尺八	通常音
37		むら息音
38	篠笛	
39	能管	通常音
40		ひしぎ音
41	ひちりき	
42	笙	
43	胡弓	
44	掛け声	

プログラムNO.	Ch.1-9,11-16
45	ピアノ
46	Eピアノ
47	フルート
48	オーボエ
49	クラリネット
50	サククス
51	トランペット
52	ブラス
53	バイオリン
54	ストリングス
55	アコーデオン
56	ギター
57	ビブラフォン
58	Aベース
59	Eベース
60	Eピアノ2
61	ナイロンギター
62	ジャズギター
63	ハーモニカ
64	ソプラノサククス

打楽器音色一覧表

□ : 内はオクターブスイッチを入れたときに鳴らせる打楽器音色です。

— : 音が鳴りません。

[EXC] : EXCの後ろの番号が同じ打楽器音色は、同時に発音しません。

鍵盤	ノートナンバー		発音する打楽器音色
1	36	C 2	三味線太棹・撥音
1 #	37	C# 2	---
2	38	D 2	三味線細棹・撥音
2 #	39	D# 2	---
3	40	E 2	琵琶・撥音
4	41	F 2	琵琶・撥り音1
4 #	42	F# 2	---
5	43	G 2	琵琶・撥り音2
5 #	44	G# 2	---
6	45	A 2	---
6 #	46	A# 2	---
7	47	B 2	---
1	48	C 3	大太鼓1
1 #	49	C# 3	胴打ち
2	50	D 3	大太鼓2
2 #	51	D# 3	胴打ち
3	52	E 3	締め太鼓1
4	53	F 3	締め太鼓1
4 #	54	F# 3	桶太鼓
5	55	G 3	締め太鼓2
5 #	56	G# 3	桶太鼓
6	57	A 3	締め太鼓2
6 #	58	A# 3	寺鐘
7	59	B 3	締め太鼓 ツ
1	60	C 4	締め太鼓 ツ
1 #	61	C# 4	羯鼓
2	62	D 4	大鼓
2 #	63	D# 4	拍子木
3	64	E 4	小鼓 [EXC1]
4	65	F 4	小鼓 タ [EXC1]
4 #	66	F# 4	鉦 [EXC2]
5	67	G 4	木魚1
5 #	68	G# 4	鉦 (止め) [EXC2]
6	69	A 4	木魚2
6 #	70	A# 4	鈴
7	71	B 4	コンガ (低)
1	72	C 5	コンガ (高)
1 #	73	C# 5	ボンゴ (低)
2	74	D 5	コンサートバスドラム
2 #	75	D# 5	ボンゴ (高)
3	76	E 5	バスドラム
4	77	F 5	スネアドラム [EXC3]
4 #	78	F# 5	ハイハット (開)
5	79	G 5	リムショット [EXC3]
5 #	80	G# 5	ハイハット (閉)
6	81	A 5	クラッシュシンバル
6 #	82	A# 5	ライドシンバル
7	83	B 5	ティンパレス (低)
1	70	C 6	ティンパレス (高)
1 #	71	C# 6	クラベス
2	72	D 6	スネアドラム2
2 #	73	D# 6	ビブラスラップ
3	74	E 6	コンサートスネアドラム
4	75	F 6	ロータム
4 #	76	F# 6	---
5	77	G 6	ミッドタム
5 #	78	G# 6	---
6	79	A 6	ハイトム
6 #	80	A# 6	---
7	81	B 6	---
1	84	C 7	---

オクターブ
下がる

オクターブ
上がる

MIDI インプリメンテーションチャート

Model: TES-371

Date: 14-May-2001

Version: 1.0

ファンクション		送信	受信	備考
ベーシック チャンネル	電源 ON 時	X	1-16	1: インターナル
	設定可能	X	X	2-9, 11-16: マルチ 10: リズム
モード	電源 ON 時	X	3	
	メッセージ	X	3,4	
	代用	X	X	
ノート ナンバー		X	0 - 127	
	音域	X	0 - 127	
ベロシティ	ノート・オン	X	O	
	ノート・オフ	X	X	
アフター タッチ	キー別	X	X	
	チャンネル別	X	X	
ピッチ・ベンド		X	O	
コントロール チェンジ	1	X	O	モジュレーション
	5	X	O	ポルタメント・タイム
	6	X	O	データ・エントリ MSB
	7	X	O	ボリューム
	11	X	O	エクスプレッション
	65	X	O	ポルタメント・スイッチ
	80	X	O	ビブラート・スイッチ
	81	X	O	サステイン・スイッチ
	100,101	X	O	RPN
	121	X	O	リセット・オール・コントローラー
プログラム チェンジ		X	O	0 - 63
	設定可能範囲	X	O	0 - 63
システム・エクスクルーシブ		X	O	
コモン	ソング・ポジション	X	X	
	ソング・セレクト	X	X	
	チェーン	X	X	
リアル タイム	クロック	X	X	
	コマンド	X	X	
その他	ローカル ON/OFF	X	X	
	オール・ノート・オフ	X	O	123
	アクティブ・センシング	X	X	
	リセット	X	X	

モード 1: オムニ・オン、ポリ

Mode 2: オムニ・オン、モノ

○: あり

モード 3: オムニ・オフ、ポリ

Mode 4: オムニ・オフ、モノ

×: なし

第四絃以外を使用する音色

音色番号	音色名	1 絃	2 絃	3 絃	5 絃
1	大正琴一（ゆり） 通常音	大正琴一細線単音	大正琴一細線単音	大正琴一細線単音	大正琴一太巻線単音
2	細線単音	—	—	—	大正琴一太巻線単音
3	細巻線単音	—	—	—	大正琴一太巻線単音
4	太巻線単音	—	—	—	大正琴一太巻線単音
6	大正琴二（蘭ソプラノ） 通常音	大正琴二細線単音	大正琴二細線単音	大正琴二細線単音	大正琴二太巻線単音
7	細線単音	—	—	—	大正琴二太巻線単音
8	細巻線単音	—	—	—	大正琴二太巻線単音
9	太巻線単音	—	—	—	大正琴二太巻線単音
12	大正琴三（タイプⅡ） 単音	—	大正琴三単音	大正琴三単音	—
13	大正琴四（蘭アルト） 通常音	大正琴四細線単音	大正琴四細線単音	大正琴四細線単音	大正琴四太巻線単音
14	細線単音	—	—	—	大正琴四太巻線単音
15	細巻線単音	—	—	—	大正琴四太巻線単音
16	太巻線単音	—	—	—	大正琴四太巻線単音
17	大正琴五（蘭バス） 通常音	大正琴五 1 絃単音	—	—	—
20	箏 スクイ音	—	—	—	箏シュー音
27	三味線一（太棹） 通常音	—	—	—	太棹開放絃音
28	スクイ音	—	—	—	太棹開放絃音
29	開放音	—	—	—	太棹開放絃音
30	三味線二（細棹） 通常音	—	—	—	太棹開放絃音
31	スクイ音	—	—	—	細棹開放絃音
32	開放音	—	—	—	細棹開放絃音
33	琵琶 通常音	—	—	—	琵琶開放絃音
34	スクイ音	—	—	—	琵琶開放絃音
35	開放音	—	—	—	琵琶開放絃音

故障かなと思う前に

故障と思う前に、もう一度確かめてみましょう。

症状	原因	解決法
音が出ない。	「電源スイッチ」が入っていない。 「音量つまみ」が下がっている。 「ACアダプタ」が外れている。	「電源スイッチ」を入れてください。 「音量つまみ」を右に回してください。 「ACアダプタ」をしっかりと、 「本製品」本体、およびコンセントに差し込んでください。
絃センサーを弾いても音が出ない。	鍵盤を押さえていない。(解放絃で弾いている) 「鍵盤スイッチ」のランプが点灯している。	鍵盤を押さえて弾いてください。 「鍵盤スイッチ」を押してランプを消してください。
鍵盤を弾いても音が出ない。	「鍵盤スイッチ」のランプが消えている。	「鍵盤スイッチ」を押してランプを点灯させてください。
音が小さい。	「音量つまみ」が下がっている。	「音量つまみ」を右に回してください。
音色によって音の大きさが違う。	電子楽器の性質上、音色により音の大きさが異なることがあります。	故障ではありません。
演奏中雑音が入る。	電気製品や蛍光灯のスイッチを入れたり、切ったりすると雑音が入ることがあります。	原因と思われるものから遠ざけてください。

上記の内容を確認しても正常に動作しないときは、お買い上げ販売店、スズキ各営業所またはスズキお客様相談窓口にご相談ください。

和楽Ⅲ 仕様

品番: TES-371

鍵盤	37 鍵
絃センサー	第一絃～第五絃・ミュートバー
音色	64 音色・打楽器音色 44
音源	PCM VASEII 音源
効果	ビブラート（圧力センサー）・ピッチベンド（レバー）・ペロシティ（絃センサー）・ エクスプレッション（外付ペダル 別売品）・サスティン（ボタン）
コントロール	音量・移調（-5～+6 半音）・調律（438～444Hz）・オクターブアップ・オクターブ ダウン・五絃（入/切）・五絃調律・演奏モード（鍵盤スイッチ）・太鼓センサー
外部端子	外部出力・ヘッドホン出力・MIDI 入力・ペダル入力・電源入力
外部出力	200mVrms・600 Ω
スピーカー	7.7cm・出力 2W
電源	DC10V 1A
寸法	幅 722 × 奥行 220 × 高さ 92mm
重量	2.5kg
付属品	AC アダプター・ピック・予備絃（細線 1 本・太線 1 本）・ソフトケース
アクセサリ （別売）	エクスプレッションペダル（V-20H）

株式会社 鈴木楽器製作所

〒430-0852 静岡県浜松市領家2-25-12 ☎(053) 461-2325

鈴木楽器販売株式会社

本 社	〒430-0852	浜松市領家2-25-11	☎(053) 463-6601
北海道	〒064-0809	札幌市中央区南9条西11-1270-5	☎(011) 551-8911
盛 岡	〒020-0032	盛岡市夕顔瀬町17-24	☎(019) 624-2349
東 北	〒982-0031	仙台市太白区泉崎2-1-7	☎(022) 244-3121
関東北	〒331-0043	さいたま市大成町1-435-5	☎(048) 652-6521
新 潟	〒950-0948	新潟市女池南1-5-16	☎(025) 285-4731
東 京	〒141-0031	東京都品川区西五反田7-22-17	☎(03) 3494-3937
神奈川	〒224-0032	横浜市都筑区茅ヶ崎中央15-1	☎(045) 945-0371
浜 松	〒430-0852	浜松市領家2-25-11	☎(053) 463-6602
名古屋	〒465-0051	名古屋市名東区社が丘1-405	☎(052) 703-7715
富 山	〒930-0085	富山市丸の内1-7-15	☎(076) 444-3855
金 沢	〒921-8154	金沢市高尾南3-85	☎(076) 296-3035
大 阪	〒561-0817	大阪府豊中市浜2-20-35	☎(06) 6336-2211
四 国	〒760-0063	高松市多賀町2-17-13	☎(087) 837-6070
広 島	〒733-0003	広島市西区三篠町1-2-24	☎(082) 509-2225
九 州	〒816-0094	福岡市博多区諸岡1-6-23	☎(092) 573-7251
熊 本	〒862-0912	熊本市錦ヶ丘5-27	☎(096) 367-8381
南九州	〒890-0005	鹿児島市下伊敷3-90-22	☎(099) 220-6814

スズキお客様ご相談窓口  0120-7-94019

月曜日～金曜日(祝祭日を除く)
9:00～12:00 13:00～16:00



<http://www.suzuki-music.co.jp/>

インターネットでスズキホームページをご覧ください。